蠶絲の光

第二十二版埼玉支會

第六年八月號

大日本蠶絲會發

明治四十五年[illegible]月[illegible]日第三種郵便物認可　大正六年[illegible]十五日發行（毎月一回十五日發行）

繭は桑園の改良によりて得らる
所主
井榮治
（注文に應す）
（市西凡十丁）

埼玉県立熊谷図書館

時代の要求一代交配蠶種の提供

（發生保險）晩秋用（冷藏及生種）一代交配

發生九月下旬まで

優良蠶種

但 特別蠶種普及の爲め大割引
壹枚金八十錢つゝ必す前金
拂込に限る

發蛾 八月十五日頃より
九月二十日頃まで

一來年度冷藏蠶種豫約製造

一來年度春蠶種豫約募集

一代交配種製造專門元祖 **藤井榮治**（注文に應す）

岐阜縣稻葉郡島村近の島（岐阜市西凡十丁）

藤井蠶業研究所主

繭は桑園の改良によりて得らる

（日本）（支那）（歐洲）優良一代交配種

純系◎日本◎支那◎歐洲◎各種基礎原種
種類名稱說明書并に定價表御報次第送呈す

長野縣小縣郡鹽尻信濃館蠶業傳習所

信濃館 清水太郎左衛門

振替口座東京九五九三番

大 口

●蠶兒の飼草竄生圖
●雜草飼育の繭論
●アミノ酸類の蠶兒飼 上田蠶絲
●實用的價値充分なる蠶兒飼草の發見 岐阜縣立原蠶種製造所大井支所 宗像常譽
●蠶兒の縮小性軟化病に就て 京都高等蠶業學校教授農學士 鈴木五右衛門
●蠶兒形態上に於ける雌雄鑑別の新法 廣島縣立原蠶種製造所長 池田榮太郎 井上彌七
●筵繭顯色法 蠶業試驗場技師農學士 平塚英吉
●製絲企業組織問題 農學士 山崎梅治
●夏秋期に於ける一代雜種の飼育に就て 岐阜縣立原蠶種製造所大井支所長 藤間大治郎

叩門

●本邦絹絲の爲に恐るべき二大競爭品 三井物產紐育支店長 瀨古孝之助氏談
●何故に產卵せぬ蛾が多いか 農學博士 大森順造氏談
●蠶種の不足は目下の大問題 蠶絲業同業組合中央會議員 富田勘之丞氏談
●金光種を原種にすれば 三井物產橫濱支店生絲部主任 伊藤椅一氏談
●絲價の將來 本會評議員 尾澤琢郎氏談

雜纂

●川と蠶絲業 東京高等蠶絲學校助教授 丹羽四郎
●一代雜種の研究 松崎製絲場主 依田佐二平
●蠶業生產力比較表 臺灣 中野八郎
●臺灣の蠶業

資料

●農家戶數及養蠶家戶數 農商務省
●耕地反別畑反別及桑園反別 同
●道府縣桑園改良增殖獎勵費及其國庫補助金額 同

遠響

●第二回世界蠶況●世界生絲の產出額●獨逸の絹絲需要增加

絲況

●橫濱市場＝紐育市場＝里昂市場
問答＝發明界＝會務錄事＝蠶桑雜觀＝文藝＝其他

春夏秋蠶種豫約募集

一代雜種

春蠶種（黄繭白繭）各種

夏秋蠶種（黄繭白繭）各種

冷藏蠶種製造發蛾
八月中旬より九月中旬迄
製造期豫約注文特に割引す
◎初夏初秋之期多收繭豐作する交雜種七
福神は蠶界の七福神より優良を得る一
枚なりとも試み御飼育ありたし

愛知縣一代交雜種製造團員
八樂一代交雜種普及會

愛知縣八名郡丹着村字日吉
柿田國三郎
豐川鐵道新城驛下約二十五丁

基礎原種

春蠶種

黄繭
- 國蠶五號　ゼクサート
- 國蠶歐七號　トローム
- 國產歐十二號　キネーゼヲロブロ
- 國蠶歐六號　愛原三號
- 國蠶支七號　金黄

白繭
- 國蠶日一號　愛原二號
- 國蠶支二號　歐支分離白
- 國蠶支三號　蕭山
- 國蠶支四號　新圓
- 愛原一號　桂世界一

冷藏蠶種

黄繭
- 掛合セクサート
- 黄石丸

白繭
- 歐支分離白　白石丸
- 愛日一號　愛原四號
- 七福神　三龍又
- 銀白　大草青熱
- 國の錦　長白龍
- 新元　桂圓

桑苗

陽明館は桑苗改良の急先鋒にして品質優良種類正確なる良桑を最も廉價に供給するを以て本務とす

■■【どなたにでも御越次第】

無代進呈

埼玉縣兒玉郡長幡村五明
桑苗專門　**陽明館**
振替東京三三五六七
電信略號（メイ）

理想の優良品種、純系伊太利第一號カタネヲ、佛國、一號ルー、甘樂桑、淸十郎早生、扶桑丸、早生十文字、露國野桑、國光、其の他各種

一代雜種の精華を見よ

一代雜種專門

新種[illegible]飼はざるものは滅びん

春秋各種
- 一代交配種（黄繭）
- 固定交配種（黄繭）
- 在來優良種（白繭）

右各種共二十八蛾付一枚壹圓
多數共同購入に對しては特に割引す

肥後蠶榮社
熊本縣下益城郡杉上村出水
社長　牛島新藏

●基礎原種
（黄繭）國蠶歐七號　國蠶歐五號
（白繭）世界一　國蠶支十一號　新元　熊原五號
（基礎原種は別に代價を定む御希望の方は直接御照會を乞ふ）

桑苗販賣
白芽魯桑、赤芽魯桑、改良鼠返、
（豫約注文に應す）

豐美なる繭は桑園の改良によりて得らる

◎正確の桑苗を販賣仕候定價表御請求次第發送仕候
元東京府下淀橋町角筈一番地
現時府下中野町二二二一停車場前

桑樹改良之先鋒

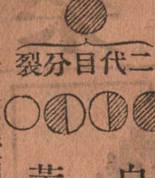
合名會社 **桑蠶社**
代表者 社長 桑原義彰
振替口座東京一〇六三五

春秋兼用の最優良種提供

本多岩次郎先生歐洲蠶絲業視察の折持歸られし新種
◎（伊國原蠶）純系伊太利第一號 一名大桑原
原種として發賣仕候

東京府中野町打越二二二六
內外新種栽培
私立 **桑樹試驗場**
振替口座京八四六三

一代雜種專門 ◎**風穴蠶種豫備號**（も廣告本號限）



白繭
二化性群原日い號×群原支い號
二化性群原日ろ號×群原支ろ號

黃繭
二化性群原支い號×一化性群原日ろ號
二化性國蠶歐五號×一化性國蠶支七號

豫約白繭一枚金壹圓〇黃繭金壹圓五拾錢豫約期九月廿日限原價復す

高山社分教場
上毛蠶館
群馬縣多野郡新町
千木良方郎

二化純系

◎**金光** 最も大巣にして濃厚なる二化黃繭にして本種は最近伊國パスクワリス蠶種製造所より直輸に係る優良品なり
原種用 框製 壹枚金五圓（大正七年度用二百枚限り）

◎二化**金色**（黃繭）◎二化**大草**◎二化**白鶴**◎二化**大錦**

◎以上原種頒種す申込あれ

●一化性支那種**漢口緒繭**（ハンカオ）D號最近本邦に輸入せる該種（五紅色種あり）中本號は最も大巣なる良好品種にして歐支、交配上其一代種卵をして濃厚なる色を均ふる點に於て且又二代複製の場合更に各粒繭色の均一なるものを得る點に於て蓋し黃繭交配種上缺くべからざる良原種なり一升の粒數百參拾粒、玉繭百分の五、絲長八百回以上に達す、本春僅かに原種三拾枚を製出す、一枚金拾四圓の割合を以て豫約前金申込順に頒種す、至急申込あれ、

●**外國系桑苗**並**接穗**（一昨年來試驗の成績書を呈す郵券封入申込一覽あれ）
◎伊太利種●一號二號●三號●四號●五號●六號◎フランス種●一號●二號●三號◎亞米利加◎露西亞●支那◎臺灣桑◎廣東桑●八丈◎對島◎朝鮮◎在來種●甘樂桑●赤芽早生●紫早生●筋桑●實生魯桑●他數十種

上田蠶絲專門學校長農學士針塚長太郎先生序
●**全國交雜蠶種繭品評會並桑苗展覽會**事績報告 一部金六拾五錢 郵稅四錢
斯會の開催は本邦に於ける嚆矢にして入賞繭は色刷を以て現色形を顯はし、審查規定審查成績、品種目錄、一道二府廿九縣に涉れる出品者、入賞等級、住所氏名等を掲げて上梓し記念と爲せり
國立蠶業試驗場檢閲（群馬之產業社版權所有）

●額面「**國蠶頒布基礎原種繭標寫眞本圖**」
菊判大型四分ノ一洋紙百斤類美最近印刷コロタイプ四色刷
●實價壹枚金貳拾錢（郵稅貳錢）五月一日發刊

申込所 前橋市曲輪町二五
群馬縣蠶種同業組合聯合會機關
群馬之產業社
振替東京二九三八七
電信略號（サン）

必當の蠶種は是なり

秋蠶種一代交雜種（セクザート日本錦、ジャロ大白龍、アスコリ大草）黃繭專門七月二十日より順次製造す

日本アルプス雪の下（日支交配種 白龍 白飛白）八月十五日より九月十日迄順次製造す

晚秋蠶種

風穴種（日歐交配反對種、大草、大白龍）隨時出穴發送す

代價
一代交配種壹枚 金壹圓貳拾錢
在來種（秋蠶種 百蛾附壹枚金貳圓／晚秋蠶種 八拾蛾は壹枚金壹圓六拾錢／風穴種 特別蠶種壹枚金八拾錢）
拾枚以上は相當割引す

本團製蠶種は有名なる日本アルプス山脈の四時不滅の白雪皚々たる高峰の麓にて此自然の大氣と新進の學理實驗とに依り製造せるものなるが故に其蟲質の强健にして氣候の激變に對し其抵抗機能の旺盛なる決して他の及ぶ所にあらざるは敢て過言とせず殊に晚秋蠶雪の下は既に飼育者の好評湧くが如し論より證據御飼育の上御批評を乞ふ
各地に支部主任を募集す代金は本團理事宛振替口座東京三七三五九番へ御送金の事

信州有明
日本アルプス蠶種獎勵團
理事松島太一郎（電略）アル（振替口座東京三七三五九番）

急告

晚秋蠶種實費大販賣

一代交配種（黃繭 金華と支那紹興の交配／白繭 五大洲と支那紹興の交配）
春蠶各種（飛白 中巣改良玉無、掛合中巣）
優良在來種（姬蠶 改良中巣其他）

右八月十日頃より順次發蛾產卵仕り候間御希望者には實費にて優良種御注文に應ず可く候間至急御注文被下度願上候御照會次第回答す
追伸 限りある蠶種に付き可成早く御申込み相成度候也

茨城縣結城郡石下町本石下
勤精館 **齋藤宗太郎**

信濃桔梗原産の晩秋蠶種

▼（完全無毒）優良一代交配蠶種
△種類 日歐 日支 日日 交配

▽（百育百中）在來蠶種
△種類 日本錦（支那掛複製）白龍、飛白、其他

製造期八月十日より九月中旬迄順次製造す

代價
一代交種 枠製一枚 一圓
在來種 枠製一枚 六十錢
平製一枚 一圓三十錢

特價 五枚以上五分引十枚以上一割にて提供す

長野縣東筑摩那廣丘村桔梗原蠶業館

優良晩秋蠶種製造所

郵便 村井局 電信 鹽尻局
電略（ヲァナ）又は（ヲ）
振替口座 東京八七二六番
監督 小穴彌十郎
支配人 小穴義雄

蠶業館蠶種は當所にて細密檢査を施し其優良種たる事を保證す

筑南特設蠶病檢査所

▲特産信濃大葉桑苗（實費分讓）

當組生産優良桑苗（信濃大葉）は既に原蠶種製造所組合團體等にて實驗の結果交配種は勿論夏秋蠶中新晩秋蠶には最適當せる優良種なり當組は普及の爲實費にて提供す御希望の向は照會相成たし

長野縣東筑摩郡廣丘村
筑南生産桑苗販賣組

本館製造 晩秋蠶種發賣

二化生種

●千回白龍
同上
（在來種中の最良種にて上繭絲長千回に達す）一升 二百粒內外

●新日
同上
（日支交配固定の二化生種にして絲量多くして飼育し易し）一升 二百粒位

●大和錦
同上
●日本錦
同上
（此二種は在來種中最も廣く行はるものにて飼育平易絲量豐富）一升 二百二三十粒

●初代交配種
（日支、支歐、日歐の黃白各種あり）

●冷藏黑種
●日露
同上
●國富
（此二種は固定交配冷藏種の兩大關にて貯藏完全發生良好請合）

價種
初代交配黃繭種框付一枚代金 一圓五拾錢
同上日繭種同 一圓參拾錢
其他の諸種同 七拾五錢
拾枚以上は割引す

埼玉縣鴻巢町
興農館營業所（電話鴻巣參番）

（種繭審查會合格理想優良種）蠶種販賣廣告

	種類名稱		數	
春蠶種	良白（一名島村）	長大巢	一升	二百二三十顆
	大巢白龍	大巢	一升	二百顆內外
	改良又昔	長中巢	一升	二百五六十顆
	大巢又昔	長大巢	一升	二百二三十顆
	支那又（日支交配）	楕圓形	一升	百六七十顆
歐洲種	黃白	長楕圓形	一升	百五十顆
	一代雜種及交配用基礎原種			數種
風穴種	白鷄	大巢	一升	二百二三十顆
	多摩錦	中巢	一升	二百四五十顆
	良白	長巢	一升	二百二三十顆
代價	普通平附	一枚		金一圓五十錢
	特別框製	一枚		金七十錢
	風穴框製	一枚		金六十錢
	歐洲框製	一枚		金一圓

群馬縣佐波郡島村
群馬縣原蠶種製造所
依托春秋原蠶飼育所
勸業社 **田島彌平蠶事部**
振替口座東京一七一四番

◎原繭見本御入用の御方には送呈す申越あれ
◎養蠶法實習生募集す希望者は照會あれ規則を呈す

◎春蠶種製造廣告

一基礎原種 本邦種、歐洲種、支那
一交雜種 日支、日歐、支歐、支々
一在來種 一般

△右各種の特徵、價格等詳細は御照會を乞ふ

多野郡蠶種同業組合

只今が申込の最好機

營業案內は御申込次第無代送呈す

優良蠶種桑苗實費分讓

春蠶種
冷藏種　各種　製造販賣
桑苗

◎大正七年度用春蠶冷藏種實費分讓仕る可く候間大至急豫約御申込相成り下され度候
豫約申込金一枚に對し參拾錢以上
◎冷藏種御望み通り出穴御送附仕る可く候間御用命賜はり度願上候也

春蠶種（黄石丸一 三龍又代 愛黄種）各種
冷藏種（三龍又 三河錦 黄石丸 白露）
但し本年は黄石丸のみ賣切れ

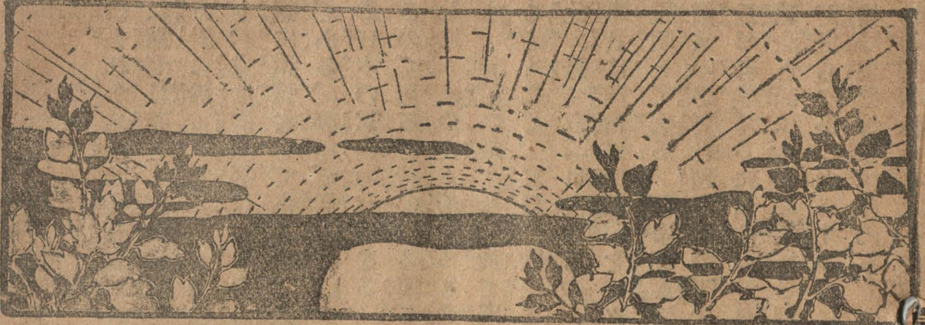
新案特許貯桑器
新案特許願濟上簇器
新案特許桑摘器
（有權製作）
特許渡邊式平温器
特許遠藤式簇折器
新案特許淺井式シロカキマンガ器
特許記念式麥擢器
（全國一手）

夏秋蠶殊に秋蠶の豐作を得んと欲せば善良なる桑葉と完全なる貯桑場とを得よ而して最も困難なる又必要なる芽桑の完全なる貯桑を欲せば本館發賣の貯桑器を備へよ

募集（代理店、特約店、外務員）
規定書 廣告見本 御入用の御方は貳拾錢送れ送附す
○全國各地に特約店代理店外務員募集す大至急御申込を乞ふ
○未だ區域特約未濟の地方に對しては左の方法に依り區域を定めず取次店許可す大至急申込を乞ふ
貯桑器　一個　五圓
桑摘器　百個入　四圓
簇折器　一個　一圓二十錢
（御送金の御方に對し許す）（廣告も送る）
桑摘器御入用の御方は見本用八個入四十錢にて送る

發賣元　蠶種桑苗業　愛蠶部
振替東京一五〇一二番
電略〇カ又ハカ

機敏は成効の基早いもの勝遲れて人に負けるな



貯桑が惡い爲めに失敗した實例

蠶業試驗場綾部支場技師　下井盛夫氏談

私がコヽに來てから、土地の有力の當業者であつて、其蠶室も設備もなか〳〵行き届いて居るが、春蠶がドーモ面白くない、殊に四五齡の壯蠶期になつてから年々失敗するので、ドーか一度來て見て吳れぬ—かとの事であつた。

處が忙しくはあつたし、自轉車に乘れぬので、稽古して乘れる樣になつたら行こうと云ふ約束して置いた、……漸く乘れる樣になつたから、來て吳れ〳〵と云ふので行つて見ると、總てが行き届いて居る、……が、蠶の工合がドーモ面白くない、ハテ不思議のことがあるものかな、年々斯樣の調子かと尋ねた處が、年々同じ樣であるとの事である、最後に貯桑場を見せて吳れと云つて、貯桑場を見に行つた處が、

狹い室に四尺も高さがあるかと思ふ程、桑を積んである、中に手を入れて見ると、中は蒸れて熱くなつて居る……から是は宜しくないが、何時もコンナかと聞くと何時も熱いから、蠶に與へる前に、冷して而して後與へると答へたから是が惡ひ、桑をコンナに熱く蒸して與へては例令冷たくして與へたにした處が蠶の爲めに宜しくないから、三十分間置き位ひには攪拌して熱を持たぬ樣にして與へなければ、蠶は無事に育つものでないと云ふ話しをしてやつて、貯桑上に注意する樣警告して歸つた處が、其處では貯桑場を改良した上に貯桑上にも注意する樣になつてから、失敗せぬ樣になつた。

夫れ以來近所には貯桑場の設備を特にする者が出來て今は一般に行き渡る樣になつたので、失敗する者がなくなつたので喜んで居ります、……壯蠶期の多量の桑をトモすると貯桑仕損んじて思はぬ失敗をする者も尠くないですが貯桑と云ふものは飼育上極く注意すべき事であります云々（一）

秋蠶は春蠶の型にハマツて飼ふては宜しくない（承前）

東京高等蠶絲學校講師　横田長太郎

五

◎夫れから從來の養蠶法に於て最も嫌焉たらざるを得ぬ點て是非とも速かに改めなければならぬ點は其主義方針に於てゞある、徒らに拘泥したり形式に捉はれたり、或は同黨異伐に日を暮らしたりすることに於ては誠に遺憾なしてあるが、大處の方針主義に至りては零である、夢中で居る。

◎日本の蠶繭の貧弱なる一大原因は實に此處に伏在するのである吾輩の觀る所では從來の養蠶法は粗製主義を取り來つたと稱するも敢て酷評ではない栽桑に於ても、養蠶に於ても、敢て明白に粗製多產主義を標榜せる者もなく、又敢て明白なる理解と覺悟の下に於て、兎に角此方針で取られたるものとも思はぬけれども、事實は明白に此傾向を「タドリ」つゝ歩み來たことを證明して居る、假令粗製多產主義てあらうとも、夫れ相當の必要と理解との下に爲されたるものならば勿論敢て非議するに當らぬけれども蠶と云ふもの若くは養蠶法と云ふものに對する觀念が間違つて居つたり理解が足らなかつたりする事に基因する所ありとせば則ち其結果や知るべきのみてあるまいか。

◎全體明治時代に於て舊[illegible]打破の使命を帶びて生れたる養蠶法は、如何なる見地と如何なる方針とに依り編み出されたるものなるかと云ふに、其當時は所謂普及時代獎勵時代であつて、而して斯業に對する當業者の經驗淺く、智識も低く、又一般經濟事情も今日から觀れば大に幼稚で裕かであつたから、從て養蠶法の如きも主として入り易すく、行ひ易すく、間違のなきことを主眼とし、目的とされたのである、少費多穫即ち大に生產の資金の節約を計りて利潤の增進を專要としたものでもなければ、又大に品質の改良向上を計りて優良品の生產を目的としたものでもない今日よりは總てに於て遙に程度の低き時代の要求に適應すべくなされたので、云はゞ折衷主義中等主義を取り、而して之に依りて全國統一の方針を取りたのである、技術的見地よりは寧ろ政策的見地に於て重きを置かれたのであると觀ても宜しい。

◎之れは養蠶法許りではない、蠶の品種に於ても亦同樣であつた、前と同樣の見地に依りて劣等の品種を排斥すると同時に一面優良の形質あるものをも、多數の當業者に適せぬと云ふ意味を以て排斥した、加之種類一定と云ふ[illegible]見地からして中等の品、中等の方法を勸奬したからして自然の物と或者とに對しては其向上を抑制した様な結果をすら免かれ得なかつたのである、然るに大正の養蠶家か否な大先生連が這般消息の觀察省慮を怠りて、之を末代までの金科玉條と誤認して墨守を敢てするのみが、前述の如く益々形式的方向に進み行くが如きは思はざるも亦甚だしと許せなければならぬ、否な智無きも亦甚だしと云はねばならぬ。

六

◎近頃品種改良の運動頗る隆盛を極め、日本の蠶界將さに黄色否な七色の光彩を放たんとしつゝある、品種の改良優良種の採用は優等物の生產、從ては利益の增進に對する第一の要義で、最も喜ぶべき現象であるが併ながら此品種改良の眞意義が普く當業者に徹底して居るや否や、疑なき能はずではないか、只白色や雜色に塗り替へた丈けでは何の意義[illegible]ければ何の利益もない譯である。

新潟縣柏崎に開きたる本會主催秋蠶講習會講習生記念撮影

◎蠶の良き繭を造ると惡しき繭を造るとの差別は品種の關係許りでない、桑の良否飼育法の良否に依る所も亦極めて重大である、否な寧ろ「より以上」に重大である。此等の點に對する斯界の注意と努力とは果して如何の狀に有るか、栽桑に於て依然として掠奪農法的濫穫を改めず、養蠶に於て依狀として多頭貧桑的飼育を實行する樣な事では折角の品種改良運動も畢竟一場の惡夢に終らんのみである。

七

◎論より證據本年の春蠶では黄繭種も一代雜種も其品質其實力、在來種に比し何の相違もなき繭が方々に出來たと云ふではないが先進地を以て目せらるる地方特に然りだと云ふではないか、因より一片の風説で眞僞の程は未だ不明であるけれども養蠶界の思想や養蠶法の主義方針なるものが、從來の儘改められない以上は當然之れ有り得べき

事柄と云はねばならぬ。

夏秋蠶の飼育法は「ドウスル」「コウスル」と云ふ樣な末節に沒頭するよりも、先づ此等の根本的方面に於て一般の覺醒と反省とを求むるとが今日の急務であると信ずる、蠶許り一代雜種でも飼育者が在來種的では、猫に頭巾を被ぶせて尾を打つ樣なものである。

大日本蠶絲會基本金募集趣意書

本會は本邦輸出品の首腦たる蠶絲業の改良發展を圖り國家の富源を涵養するを以て目的となし去る明治二十五年之を創立し爾來專心斯業上に於ける學術技藝の進歩と生産の増殖及販路の擴張に努力し來れり顧に本會創立の當時に於ては蠶絲類一箇年の輸出額三四千萬圓に過ぎざるもの今や殆ど三億圓の巨額に達せんとするに至れり斯の如く異常の發達を爲せる所以のものは辱くも斯業に對する　皇室の御眷顧と官廳の奬勵、當業者の勤勉及世界に於ける絹布需要の増進等に因るとは雖も其間本會の誘掖指導亦聊か與りて力ありと信ずるなり本會の事蹟は畏くも　天聽に達し創立以來二十餘年斯業の改良進歩を圖り國家富力の發達に貢献する所尠からずとなし茲に特に內帑金貳萬圓を下賜せらるゝの光榮に浴す是れ本會々員一同洵に感泣措く能はざる處にして本會は益々奮勵黽勉國家の爲に貢献し以て聖恩の萬一に奉答せざるべからざるの責任を帶ぶるに至れり。

抑々本邦の蠶絲業は此の如く發達の趨勢を有し前途頗る多望なりと雖も而かも蠶絲は本邦特有の物産にあらずして産額の豐富なるは支那に及ばず品質の精良なるは伊佛に如かず然るに端なくも歐洲の戰爭は世界蠶絲業の上に一大革命を來さんとするの兆候あり事に蠶絲業に從ふ者漫然として看過すべからざるの時に際せり故に苟も蠶絲を以て輸贏を世界の市場に爭はんとせば尙桑園に蠶種に育蠶及製絲上改善を加ふべきもの甚だ多く殊に生産費を節減して廉賣を期すると共に一面海外需要地の情況を調査して販路の擴張を圖らざるべからざるなり斯業の前途愈々多事にして本會の責務益々重しと云ふべし。

本會は創立以來政府の保護金等を受けたることなく零細なる會員の醵出金及會報雜誌類の收益に依りて之を維持し之を經營し以て今日に至れり然れども現在及將來に於ける斯業の狀態は實に前述の如くにして本會の爲さゞるべからざる施設事業は愈々多し而かも本會現在の資產を以てしては旣に全力を傾注せり若し夫れ現在以上の經營施設を爲さんと欲せば更に資金の支途を求めざるべからず茲に於てか本會は全國會員及有志諸君の賛同を得て新に基本金を募集し其元資は永久に之を保存し之れより生ずる利子を以て施設經營の資に供せんと欲す希くば本會微意の在る所を諒とし斯業に直接關係せらるる諸君は勿論苟くも國家經濟を念とせらるゝの諸君は賛襄以て本會の目的を達せしめられんことを。

大正六年八月

大日本蠶絲會

基本金寄附者芳名

一金拾萬圓也　東京市　男爵　三井家總代　三井八郎右衛門君
一金八百圓也　橫濱市　矢野[illegible]甲合資會社
一金七百圓也　同　矢島善七君
一金六百圓也　同　金子合名會社
一金五百圓也　同　株式會社阿部商店
一金四百圓也　同　星野正三郎君
一金參百圓也　同　合名會社岩倉商店
一金八拾圓也　同　百井久七君
一金六拾圓也　同　合名會社小野村商店
一金六拾圓也　同　森山金輔君
一金六拾圓也　同　古鍛冶幸太郎君
一金四拾圓也　同　矢部善一郎君
一金貳萬圓也　同　原合名會社
一金貳萬圓也　同　茂木合名會社

一金五千圓也　同　原輸出店
一金壹萬圓也　同　澁澤義一君
一金壹萬圓也　同　小野光景君
一金六千圓也　同　神榮株式會社橫濱支店
一金四千圓也　同　合名會社田中商店
一金貳千五百圓也　同　若尾幾造君
一金貳千五百圓也　同　渡邊文七君
一金貳千圓也　橫濱市　大谷合名會社
一金貳千圓也　同　木村利右衛門君
一金壹千五百圓也　同　小川勝三郎君
一金壹千參百五拾圓也　同　中澤五三郎君
一金壹千參百五拾圓也　同　伊藤合名會社
一金壹千壹百圓也　同　合名會社小島商店
一金壹千圓也　同　山田駒吉君
一金八百圓也　同　井上定吉君
一金參百圓也　同　市原又七君
一金五千圓也　同　橫濱生絲株式會社

富山縣高岡市外横田村に開設せる本會主催秋蠶講習會證書授與式當日の講習生及來賓講師記念撮影

一金壹百圓也　甲府市　大木善右衛門君
一金五拾圓也　山梨縣　金鳳社
一金五拾圓也　同　三井種太郎君
一金壹百五拾圓也　同　古屋丹作君
一金壹百五拾圓也　同　小野元兵衛君
一金壹百拾圓也　宮崎縣　遠山克太郎君
一金貳拾圓也　北海道　末松格平君
一金參拾圓也　同　足立民治君
一金壹千五百圓也　京都府　郡是製絲株式會社
一金壹百參拾五圓也（四百圓の內）　山口縣　合資會社義濟堂
一金參拾圓也　同　森川佐一君
一金壹百五拾圓也の內　新潟縣　鈴木重太郎
一金貳拾圓也　北海道　北川れん君
一金貳拾圓也　宮崎縣　森新太郎君
一金六千九拾圓也　長野縣　片倉組
一金參千七拾圓八拾錢也

同　小口組小口善重君
一金貳千四百圓也　同　依田社
一金七百圓也　同　純水館
一金五拾圓也　同　佐久良社出澤加太郎君
一金貳拾圓也　同　三盛製絲會社
一金貳拾圓也　同　合資會社日向製絲場
一金五百圓也　同　佐久社
一金壹百五拾圓也　同　明治館
一金貳拾五圓也　同　米澤組
一金九百圓也　同　常田館笠原房吉君
一金參拾圓也　同　川西社
一金百圓也　同　田中社
一金參拾圓也　同　北信館
一金六拾圓也　同　信精館小山清右衛門君
一金貳拾圓也　同　長盛館
一金貳百五拾圓也　同　六文錢合名會社
一金貳百圓也　同　窪田合名會社
一金貳百七拾圓也　同　合資會社本六工社
一金壹百貳拾圓也　同　石井祐助君
一金參拾六圓也　同　小松茂老君
一金七拾五圓也　同　丸山館丸山政一君
一金七拾圓也　同　倉橋増水君
一金參拾六圓也　同　今井製絲所
一金六拾壹圓五拾錢也
同　竹内千馬十君
一金參拾六圓也　同　太田龜市君
一金貳拾圓也　同　田中澤之君
一金七拾貳圓參拾錢也
同　新榮館林文助君
一金五拾貳圓貳拾錢也
同　宮下源四郎君
一金九拾圓也　同　下平親彦君
一金壹百四拾參圓七拾錢也

同　中山庫壽君
一金貳百參拾壹圓七拾五錢也
同　龍水社
一金壹百九拾九圓八拾錢也
同　信產館平澤源藏君
一金貳百六拾壹圓九拾錢也
同　小野三雄君
一金四拾參圓五拾錢也
同　共永館製絲所
一金四拾九圓八拾錢也
同　南信社原寛一郎君
一金七百參拾貳圓參拾錢也
同　武井覺太郎君
一金五拾四圓也　同　竹入今朝吉君
一金五拾四圓也　同　栗林秋太郎君
一金參拾五圓拾錢也
同　萬館原與市君
一金參百拾四圓四拾錢也
同　小野社
一貳百參拾七圓九拾錢也
同　辰野製絲場
一金五拾五圓五拾錢也
同　片桐生絲販賣組合米山眞太郎君
一金四拾五圓也　同　新井喜助君
一金參拾圓也　同　日進社笠原龜藏君
一金四百貳拾圓也　同　河西寅吉君
一金貳百五拾圓也　同　萩倉合名會社小河原順藏君
一金七百參拾圓也　同　小口松五郎君
一金參百圓也　同　三井組三井十一君
一金八拾貳圓貳拾錢也
同　林近三郎君

一金六百圓參拾錢也
同　渡邊豐治君
一金五百圓也　同　東英社鬪五助君
一金參百五拾圓也　同　信光館丸茂文六君
一金壹百貳拾八圓拾錢也
同　濱元藏君
一金貳百貳拾五圓六拾錢也
同　信厚館矢崎源藏君
一金百圓也　同　矢島社矢島清次郎君
一金壹千貳百圓也　同　岡谷製絲合資會社
一金壹千參百五圓九拾錢也
同　日本社林宗次郎君
一金貳百圓也　同　舍組小口吉左衛門君
一金貳百七圓也　同　吉田館吉田喜代藏君　吉田倍美君
一金四百圓也　同　進工社宮坂清之丞君
一金四百參拾圓也　同　金山製絲會社小口榮吉君
一金壹百七拾六圓拾錢也
同　笠原八百七君　笠原義男君
一金六百八拾九圓拾錢也
同　信英社垣內龍太郎君
一金貳百五拾五圓也
同　開清館林清吉君
一金壹千六百六拾參圓五拾錢也
同　尾澤組
一金四百九拾四圓七拾錢也
同　小松組小松勝左衛門君
一金貳百五拾圓也　同　横內龜三郎君
一金四百八拾八圓貳拾錢也
同　大和組片倉島吉君
一金五百四拾圓參拾錢也
同　㊦組片倉淺藏君

一金壹百七拾壹圓也
同　平林正邦君
一金八百五拾圓五拾錢也
同　林組林菊次郎君
一金八拾九圓四拾錢也
同　山岡門平君
一金壹百圓也　靜岡縣　依田佐二平君
一金參拾圓也　同　河島新兵衛君
一金貳拾圓也　山梨縣　堀内甚之丞君
一金貳拾圓也　京都府　森本信富君
一金拾圓也　同　遠藤三郎兵衛君
一金拾圓也　千葉縣　山本四郎君
一金拾圓也　山梨縣　奥山七郎右衛門君
一金七圓也　同　有泉猪甫君
一金拾圓也　同　早川善太郎君
一金拾圓也　同　有泉善三君
一金七圓也　同　笠原安造君
山口養蠶組合代表者
一金拾圓也　岐阜縣　平塚五郎兵衛君
一金拾圓也　同　山本德三郎君
一金貳拾圓也　岡山縣　中備製絲株式會社
一金拾圓也　山口縣　森川虎次郎君
一金拾圓也　同　東條秀之助君
一金拾圓也　同　小田勢助君
一金拾圓也　同　林啓次郎君
一金拾圓也　同　伊藤愛甫君
一金拾圓也　同　松村正三郎君
一金拾圓也　同　矢田治作君
一金六圓七拾錢也　北海道　平井秀君外十一名
一金拾圓也　長野縣　小林芳吉君
一金拾圓也　同　今井三郎君
一金七圓也　同　田中道太郎君
一金拾圓也　同　本田興四郎君

一金拾圓也　長野縣　伊藤製絲[illegible]
一金拾圓也　同　小口幸四郎君
一金九圓也　同　杉森米吉君
一金拾圓也　同　金子吉太郎君
一金拾貳圓也　同　下里谷吉君
一金五圓宛　▲北海道奥山啓君、田中義麿君、加藤木保次君、關矢才五郎君▲神奈川縣齋藤福次郎君、篠野三吉君▲新潟縣柳澤彌七君▲埼玉縣若尾彦次郎君、諸口慶次郎君、戸矢治平君▲千葉縣五十嵐莊太郎君▲山梨縣天野桃三郎君、小池安重君、關口種甫君、代永正平君、金井豐作君、峽東委托商會、津島友善君▲長野縣長生社、宮下市兵衛君▲秋田縣碓氷社協伸組▲石川縣尾崎利吉君、山本寅松君▲愛媛縣中村淺太郎君▲福岡縣大森武雄君
一金參圓宛　▲新潟縣小平尾製絲株式會社▲埼玉縣萩原李衛君▲千葉縣鵜澤昇作君、寺本長作君▲山梨縣辻平吉君、山下藤太郎君、望月利十郎君、山下丑三君、小林勇甫君
一金貳圓宛　▲北海道鹽田庄介君、佐藤慶太郎君、神山秀夫君▲神奈川縣齋藤源太郎君、齋藤政次郎君、中里鶴吉君▲埼玉縣關口文吉君▲群馬縣佐々木左原太君▲栃木縣柴田安次郎君▲山梨縣川合要兵衛君、代永清作君、古屋忠次郎君、代永與作君、三科爲吉君、上野實君三枝國太郎君、曾根信平君▲青森縣二森英悦君▲和歌山縣鈴木善空君▲熊本縣木村三次郎君、佐藤大平君▲朝鮮寺門義篤
一金壹圓五拾錢宛　▲北海道森啓藏君、▲山梨縣芦澤歌吉君▲朝鮮澤登榮一君
一金壹圓貳拾五錢也　福井縣乙坂今北養蠶組合
一金壹圓宛　北海道小松隆平君、今田佐吉君、幸野慶吉君、三澤紫郎君、多田謙次君、上島惣五郎君、志村鎰太郎君、宮崎養簾君、前野金六君、若林功君、平井英君、吉井銀藏君▲東京府園部爲吉君、▲京都府赤松文太郎君▲神奈川縣篠野國正君、山口福太郎君、篠崎藤助君、小池要藏君、八木茂柄君、小池正平君、小儀礒吉君、井上彦三郎君、安藤直三郎君、吉村重治君、▲埼玉縣西田幸太郎君、若林泰一君、山口福次郎君、萩原音平君、飯塚清衛君、飯塚仲太郎君、清水鶴藏君、須賀彌三郎君、金井平六君、高橋清一郎君、相川佐治平君、横田喜市君▲群馬縣田村太作君、始澤鶴治君、鶴田勢以君、藤倉竹之丞君▲千葉縣須合孝君、渡邊亥三郎君、金岡仙之助君、石井米吉君▲茨城縣細田淵君、▲愛知縣富谷茂三郎君▲靜岡縣戸田勝一君、大石啓次郎君▲山梨縣佐々木平吉君、鶴田金作君、古川秀義君、古屋濱平君、西川泰君、馬淵富造君、古屋新甫君、瀬田義一君▲滋賀縣北川伊之助君、宮本豐次郎君▲岐阜縣市岡精一君、鈴木利三郎君▲長野縣筒井愛吉君、米山直太郎君、中村小しげ君、矢澤榮治君、牛山佐平君▲宮城縣新田要次君、佐藤むめ君▲福島縣氏家忠作君渡邊榮助君、齋藤宗吉君▲岩手縣藤原秀二郎君、西村龜吉君▲秋田縣莊司喜久吉君▲福井縣村田銑太郎君▲石川縣唐澤碧洋君▲廣島縣黑田利曠君▲德島縣河井美代吉君▲愛媛縣栗田熊雄君、矢野數馬君▲福岡縣園田清君▲佐賀縣森長三郎君▲熊本縣鶴田齊君、小野次平君井出直作君▲朝鮮岩田保君

計金貳拾參萬參千九百四拾四圓八拾錢

諸君、今の時に於て戰後の經營を策し、今に於て本邦蠶絲業の將來を策せねば天の與へたる時は過ぎ去ります、諸君靜かに胸を撫して邦國の前途より、我家の將來を考へて御覽んなさい、將に起つべく企圖すべき時は今であります、本會は既に過去に於て揭出し今又茲に揭出致しました趣旨の徹底の爲めに基金を募集中でありますが、本會の趣旨を諒察せられ今日迄に基金として寄與せられた方々は前記の通りであります茲に謹而感謝の意を表すると共に有志の諸君に向つて一日も早く本會の意あるところを貫徹せしめられる樣一臂の力を藉されんことを懇請いたします。

本會の主旨に共鳴せられ蠶絲の光讀者を紹介せられたる諸氏の芳名

△廣島縣田邊眞市君△大分縣神取登君△島根縣脇坂貞美君△山形縣荒木柳司君△宮城縣狩野誠厚君△岩手縣蛇口嘉一郎君△福島縣永山運平君

△長野縣磯野龍次君△三重縣打田舍藏君△靜岡縣鎌野松太郎君△福井縣吉田嘉左右衛門君△靜岡縣秋山元三郎君△岡山縣大上龜一君△廣島縣神田文一君△靜岡縣早川治重君△岩手縣鈴木梅吉君△秋田縣相馬市藏君△大分縣工藤房喜君△茨城縣木澤靜君△茨城縣豐島良平君△愛媛縣兵頭通俊君△大分縣瀨々早太郎君△靜岡縣榎本鹿藏△茨城縣市毛清市郎君△大分縣後藤圓平君△宮城縣加藤君△岡山縣柴山大三郎君△愛媛縣杉田音右衛門君△大分縣安藤敎雄君△愛媛縣武智久則君△長野縣笠木原三郎君△茨城縣猪瀨孝吉君△德島縣鹽生佐市郎君△大分縣上田恭藏君△岡山縣伴野半治君△三重縣前川清次君△岐阜縣正儀原秀作君△栃木縣渡邊榮三郎君△大分縣石川京平君△岐阜縣小野江稔君△廣島縣神田文一君△熊本縣佐伯謙藏君△群馬縣茂木不二三君△愛媛縣西川幾太郎君△栃木縣用田嘉市郎君△山形縣橋本兵彌君△宮城縣渡邊源吾君△岐阜縣渡邊初三郎君△山形縣池內武芳君△高知縣石父秀義君△福島縣瀨谷伊吉君△岩手縣花坂勇作君△栃木縣須藤理作君△岐阜縣瀨本長三郎君（以上一名宛紹介）

△大分縣工藤秋人君△宮城縣曲木圓吉君△靜岡縣大野定五郎君△宮城縣本木金藏君△大分縣吉田甚市君△石川縣西田忠信君△岐阜縣野尻彪雄君△熊本縣石松久吉君△德島縣西浦文吉君石川縣川端平作君△愛知縣櫻井君△神奈川縣三橋三郎君△新潟縣南雲定治郎君△大分縣立川幹三君△大分縣河野昌翁君△賴經芳雄君（二名宛紹介）

△熊本縣鳥飼龜太郎君△鹿兒島縣宮岡清次君△山形縣池內武芳君△岐阜縣加地鏸次郎君△大分縣佐久間岡吉君（以上三名宛紹介）

△岡山縣中村俊夫君△岡山縣草刈正男君△岡山縣岡田完元君△岡山縣高本政治郎君△山形縣矢島善四郎君△靜岡縣小林嘉作君（以上四名宛紹介）

△岐阜縣善一君（五名紹介）　岩手縣瀧澤拔刀君△大分縣石川京平君△大分縣仲摩美緒君（以上六名宛紹介）

△岡山縣峠安馬君△岡山縣石井龜一郎君（七名宛紹介）

△青森縣太田良平君（八名紹介）

△岐阜縣酒井鈴吉君△千葉縣木川新君（九名宛紹介）

△長野縣小林善之助君（十名紹介）

△岡山縣宗安覺市君△岐阜縣吉田錠之助君（十四名宛紹介）

△岐阜縣小池農場殿（十八名紹介）

△群馬縣諸角房三郎君（十九名紹介）

△岐阜縣西川新松君（廿一名紹介）

茲に謹で廣島縣田邊君以下の各位に對し感謝の意を表す

□左記諸君の宿所を承りたし。至急蠶絲の光係迄申し出でられたし。
▲岡山縣砂原林太郎君▲宮城縣堀口靜吉君▲栃木縣鹽出勘五郎君▲福島縣石井修君▲群馬縣秋山玉吉君

同功繭に就て

引地生

目下秋蠶飼育の最盛期である、近く上簇するに就ては第一に同功繭と云ふ事に就て注意を要する、何でも白く成れば宜しいとは申されぬ、第一値段に於て大差がある、故に少しでも同功繭を減ずる工風が肝要じや、近來雜種の飼育が旺盛と成り、就中日支の雜種には至る處同功繭が多いと云ふ聲を聞く、中には七八割も同功繭が出來たと云ふ人もある、そこで同功繭を成るべく尠くする方法に就て一寸書て見ようと思ふ。

同功繭は性として必ず出來る者である、勿論無い種類もある、又同功繭のみの種類もあるが、普通多少ある種類に於ては概ね左の如き場合に於て多く出來る者である。

一、忙はしく結繭する場合

同功繭は結繭の忙はしい場合に互に助け合ふ考へでも有まいが、多く出來るのである、故に高溫、過熟、等の場合には多い、即ち高溫、過熟の場合には結繭を急くので非常に忙はしく結繭するし、吐絲に追はれて適當の場所を索すのに餘猶ない爲めに同功繭を作る樣になるのである故に之を尠くするには、此反對の方法即ち結繭の初めに當つて溫度を高める樣工風をする事と共に過熟に陷らざる樣に注意し幾分若めの蠶兒を上簇する方法を構ずることが必要である、故に本年の如き高溫の年には上簇法に注意して過熟に陷らざる樣注意すると同時に或度迄低溫にする工風が大切である。次は

二、苦しき狀態に結繭する場合

簇の狀態密なる場合又は熟蠶を密に入れる場合、其他種々なる狀態の元に蠶兒が苦しと感ずる場合には多く同功繭を生ずるから是を尠くするには此反對の方法即ち苦しくない樣に上簇の方法に注意し簇の構造も緩やかにし熟蠶も適度に入れ空氣の流通も宜しくすれば宜しい。

以上の如き注意を加ふれば餘程減ずる事が出來る就中若上げ過熟せざる程度に於ては最も有効である就中此方法は同功繭の特に多い交雜種及び發育齊整なる蠶兒や高温の年には其効特に顯著である、尤も盛に發育中の蠶兒は充分熟せしめて後上簇せしめねばならぬ。

秋蠶に就て養蠶家に警告す

本縣製絲同業組合に於ては絲價未曾有の好況の今日秋蠶飼育に關する左の注意書を印刷し縣下各町村及町村農會、養蠶組合、一般養蠶家に配布し之れが警告をなせり、寔に機宜に適せる措置なりと謂ふべし。

生絲の價格　は今春以來非常に暴騰して昨今の相場は橫濱開港以來空前の好況で從て繭の相場も非常に高價なるは寔に喜ぶべき又慶すべき現象である。如斯好景氣の際には養蠶家は特に深甚なる注意を拂ひ萬違算なきを期し滿全の利益を收むる樣希望するのであるが事實は往々之に反して無謀の養蠶を營み且つ用意に缺くる所があつて却て失敗に終り悔を後日に貽すの例が乏しくない、斯くては本年の如き好景氣の場合は特に遺憾千萬であるから時既に六菖十菊の感なきにあらざれども秋蠶を飼育する者は特に左の事項に注意せられん事を望むのである。

蠶種の撰擇

蠶種の購入に就て　は郡又は郡農會から夫々注意を發せられた向も尠くない樣に聞いて居るから養蠶家に於ても相當注意せられて居る事とは信ずるが、本年は春繭に於て交配種が豫想外の高價で取引せられた結果今秋も如斯蠶種を購入飼育せんとする傾向の甚しいのは本縣蠶絲業界の爲めにも甚だ喜ぶべき現象である併しながら交配種にてさへあれば如何なるものでも良好で其繭が高價と云ふ譯のものではない、日支交配でも日歐交配でも又は歐支交配でも其優良なるものは勿論吾等製絲家は歡迎するけれども系統不明のものや三代四代と復製した雜駁劣惡なるものは素より喜ばぬのである、一代雜種の繭は最も優良で吾等製絲家の最も歡迎する所であるが、現在に於ては蠶種の製造これに伴はず、眞の一代交雜蠶種は甚だ僅少の模樣であるから蠶種の購入に際しては信用ある蠶種製造者から特に調査注意して購求する樣に希望するのである、單に交配種熱に憧憬して其善惡を究めず不良蠶種を需むるよりは寧ろ在來種を飼育する方が優るのであるから蠶種の選擇に就ては呉々も注意を促す次第である。尙病毒の存在することは特に秋期に於て最も恐るべきことであるから絕對無毒の蠶種を購求することは固より緊要である。

飼育並に上簇

飼育の原理に於ては　秋蠶でも春蠶でも別に變りはあるまいが秋蠶飼育期は槪して高温乾燥で且つ桑葉には硬軟の差が著しいから此點には深く注意を促したいのである、高温の時には冷凉を圖り蠶齡に適應したる桑葉を給し且つ桑不足なき樣充分飽食せしむることが肝要である、謂ふまでもなく生絲は桑葉の變化したものであるから充分食桑したるものは絲量豐富であるが否らざるものは絲量が貧弱である、吾等は蛹を買ふものでなく絲を買ふのであるから絲量豐富なる繭には高價を拂ふことを吝まないが之に反するものは低廉なるを免れない、故に養蠶家に在りても滋養分に富みたる桑葉を十分に飽食せしめ飼育法に注意して絲量豐富なる繭を生産する樣望むのである。

優良なる蠶種を撰び飼育其當を得ても上簇後の保護が其宜しきを得なければ品質不良となり解舒難澁となるから何程繭層は厚くとも絲量は少い即ち繭の品位は解舒の良否に依つて定まるが解舒の良否は上簇後の保護の適否に最も密接なる關係を有するのであるから上簇後の保護には特に注意せねばならぬ、上簇室内に濕氣が多く乾き不良であると繭の光澤を害し解舒困難となるから上簇後は適當に簇中を乾燥せしむることが肝要である而して強風ならざる限り戸障子を開放して空氣の流通を專一とし換氣と共に濕氣の排除に努むることを忘れてはならぬ、それから出來得る限り溫度をも適度に保たしめて結繭中途に於て蠶を休ませぬ樣調和に努むることも肝要である、尙注意すべきは莚拔きであるが繭の形が構成せられたら是非莚拔を實行して貰ひたい。

繭の撰別

收繭は若搔をせぬ樣　適當の時期に行ふことは勿論であるが選繭にも十分注意を促したいのである、死籠繭や屑繭を混ぜて置くと上繭を汚損し品位を惡くして價格を安くし販賣者の損失なるのみならず、製絲家とし

ても撰別に手數を要し其不利尠なからざるを以て販賣する前には嚴密に撰別するを要するのである、特に交配種繭の中には玉繭を混淆して居ることが從來の例に徴して甚だ多いがこれは製絲家としても手數を要し不利なるのみならず養蠶家としては大なる損失である、玉繭は自家で玉絲を製造する方が利益であるから十分に撰別して販賣する上繭には混ぜない様特に嚴密なる注意を肝要とする。

未曾有の絲價好況に際し且つ交配種熱に憧憬して十分の注意を怠り無謀の養蠶を行ひ却て失敗に終り悔を後△

△日に貽すは遺憾の極で本縣蠶絲業界の爲め寔に悲むべき事であるから特に此際注意を促す所以である。

大正五年度埼玉縣蠶種同業組合聯合會業務成績

（一）聯合組合數

營業別	本年度	前年度	對比 增	對比 減	附記
蠶種製造	七組合	七組合	—	—	
計	七	七	—	—	

（二）製造の數量竝價額

營業品種別		本年度 製造數量	本年度 價額	本年度 單價	前年度 製造數量	前年度 價額	前年度 單價	對比 增 數量	對比 增 價額	對比 減 數量	對比 減 價額
內地向	特別蠶種	二七、四〇三、四〇四蛾	六〇二、八七四、八八八円	二二厘	二四、〇四二、三一二蛾	四八〇、八四六、二四〇円	二〇	三、三六一、〇九二蛾	一二二、〇二八、六四八円	—	—
	普通蠶種	一七八、九二〇枚	二三二、五九六、〇〇〇	一、三〇〇	二〇一、七三四枚	二六二、二五四、二〇〇	一、三〇〇	—	—	二二、八一四蛾	二九、六五八、二〇〇円
計		—	八三五、四七〇、八八八	—	—	七四三、一〇〇、四四〇	—	—	九二、三七〇、四四八	—	—

備考　本表中には蠶絲業法に依る檢査に合格せざるもの物別蠶種二、八〇五、八八三蛾、普通蠶種三、九〇七枚あり
製造蠶種は全部內地向にして合格蠶種の六割は縣內の需用に供し他府縣へ移出せらるゝものは四割にして群馬、東京、茨城、千葉神奈川、山梨、栃木、愛知、靜岡、福島、岩手、宮城、秋田、青森等なりとす。

（三）營業品の檢査成績　營業品の檢査を行はず。

（四）檢査施行の狀況及檢査の營業品に及ぼしたる效果前同斷。

（五）組合經費徴收の情況竝滯納額、滯納者に對する處分の顚末　經費の徴收頗る容易にして滯納組合なし。

（六）違約處分を爲したる員數、處[illegible]の種類及其の事由該當事項なし。

（七）仲裁判斷若は調停を爲したる事由及其の顚末、該當事項なし。

（八）組合未加入者に對し訴を提起したるときは顚末、該當事項なし。

（九）組合を組織せる營業に關する商況。

生絲の價格好況に伴ひ養蠶家の景氣込旺にして蠶種の賣行頗る良好なり、然れども一面蠶品種改良の聲昂まると共に品種の不良なるものは其賣行捗々しからず。

（一〇）以上の外業務執行の情況其の成績を認むるに付必要なる事項。

（イ）**蠶業調査會**　本會蠶業調査會を組織し本年度に於ては現時蠶業界の問題たる[illegible]良に就て研究調査をなし聯合組合員を集めて

之を公示すると共に斯道[illegible]士外山博士を招聘して蠶品種改良に關する講演會を開催せり。

（ロ）**他府縣蠶絲業視察**

聯合組合員四名を京都、岐阜、愛知、群馬、長野、福島の各府縣に派遣して其地方蠶絲業狀況を視察調査せしめたり。

（ハ）**優良蠶種購入の斡旋**　一代交雜蠶種の需要頗る急なるにも拘らず之が原蠶種は聯合組合員に未だ汎かずして倒底一般養蠶家の要望を充す能[illegible]以て本會は優良なる原蠶種の購入方を斡旋したり。

（ニ）**印刷物配布**　蠶品種改良及他府縣蠶絲業の趨勢に關する調査研究事項を印刷して之を聯合組合員に配布せり。

（一一）年度末現在基本財產高及其內譯竝信認金を徴する組合に在りては其總額、該當事項なし

大正五年度埼玉縣蠶種同業組合聯合會經費決算

歳入

科目	決算額	豫算額	對比 增	對比 減	附記
第一款組合員數割	二八二、二二〇	二八二、二二〇	—	—	
一、組合員數割	二八二、二二〇	二八二、二二〇	—	—	○大正五年組合員數五百六十九人に對し一人に付金四十九錢六厘
第二款製造額割	二七八、六四〇	二七八、六四〇	—	—	
一、製造額割	二七八、六四〇	二七八、六四〇	—	—	○大正五年合格蠶種枚數四六四、四〇〇枚に對し百枚に付金六錢
第三款繰越金	二一六、〇〇〇	二一五、六三〇	三七〇	—	
一、繰越金	二一六、〇〇〇	二一五、六三〇	三七〇	—	
第四款雜收入	四、三一〇	二、〇〇〇	二、三一〇	—	
一、雜收入	四、三一〇	二、〇〇〇	二、三一〇	—	○預金利子
歳入合計	七八一、一七〇	七七八、四九〇	二、六八〇	—	

歳出

科目	決算額	豫算額	對比 增	對比 減	附記
第一款事務所費	二四五、九三〇	二六七、四九〇	—	二一、五六〇	
一、報酬及手當	六四、〇〇〇	六四、〇〇〇	—	—	○役員報酬組長廿圓副組長二人一人十圓宛 ○書記手當二十四圓
二、旅費	一五六、八四〇	一七〇、〇〇〇	—	一三、一六〇	○鐵道賃七十四圓二十四錢車馬賃十九圓三十五錢日當三十四圓宿泊料二十六圓 ○實費金三圓二十五錢
三、備品費	二五〇	一、〇〇〇	—	七五〇	○印章一ケ代
四、消耗品	四、八九〇	五、〇〇〇	—	一一〇	○用紙封筒代其他

五、通信運搬費	一七、〇三〇	一三、〇〇〇	四、〇三〇	—	○切手代十六圓七十三錢運搬費三十錢 ○不足金四圓三錢まで豫備費より支出
六、印刷費	二、五〇〇	一四、〇〇〇	—	一一、五〇〇	○挨拶狀五十枚印刷
七、雜費	四一〇	四九〇	—	〇八〇	○送金手數料
第二款會議費	四、三〇〇	一〇、〇〇〇	—	五、七〇〇	
一、雜費	四、三〇〇	一〇、〇〇〇	—	五、七〇〇	○筆耕料小使手當其他雜費
第三款事業費	二七三、五九〇	二四〇、〇〇〇	三三、五九〇	—	
一、視察補助費	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	—	—	○縣外視察員四人一人十圓宛補助
二、蠶業調査會費	二三三、五九〇	二〇〇、〇〇〇	三三、五九〇	—	○不足金三十二圓五十九錢豫備費より支出 ○金百六十八圓四十九錢外山博士を聘し講演會を開催し同時に蠶種業者を網羅して調査會を開催す ○調査會旅費金六十四圓十錢
第四款中央會費	二一、〇〇〇	二一、〇〇〇	—	—	
一、中央會費負擔金	二一、〇〇〇	二一、〇〇〇	—	—	
第五款豫備費	—	五〇、〇〇〇	—	五〇、〇〇〇	
一、豫備費	—	五〇、〇〇〇	—	五〇、〇〇〇	○第一款第五項通信運搬費へ金四圓三錢第三款第二項蠶業調査會費へ金三十二圓五十九錢支出
歳出合計	七三三、八二〇	七七八、四九〇	—	四四、六七〇	

歳入總額　金七百八拾壹圓拾七錢
歳出總額　金七百參拾參圓八拾貳錢
差　引　金四拾七圓參拾五錢　　剩餘金　大正六年度へ繰越

對比增減說明

歳　入

一、第三款繰越金に於て金參拾七錢增したるは繰越金の多かりしに由る

一、第四款雜收入に於て金貳圓參拾壹錢增したるは預金利子の多かりしに由る。

歳　出

一、第一款第二項旅費に於て金拾參圓拾六錢減じたるは役員の出張少なかりしに由る。

一、同款第三項備品費に於て金七拾五錢第四項消耗品費に於て金拾壹錢第六項印刷費に於て金拾壹[illegible]拾錢、第七項雜費に於て金七錢減じたるは事務上各費目の支出少なかりしに由る。

一、第二款會議費に於て金五圓七拾錢減じたるは會議諸雜費の支出少なかりしに由る。

一、第五款豫備費第一款第五項、通信運搬費へ金四圓參錢第二款第二項蠶業調査會費へ金參拾貳圓五拾九錢支出す其の理由は豫算に不足を生じたるに由る。

一、剩餘金處分方法
剩餘金四拾七圓參拾五錢は大正六年度へ繰越す。

聯合會役員會及代表員

本縣蠶種同業組合聯合會正副組長及評議員は本年四月任期滿了に付選擧執行の處左記の[illegible]監督官廳の許可を經たり。

組長　小槫久衞
副組長　富田新八郎　野本治兵衞
評議員　佐藤國藏　田島宰作　小高圭作
松本仙三郎　飯島辨次郎　吉岡幸作
金子正平

聯合組合選出の代表員左の如し。

北足立外二郡　齋藤正則　岩田謙三
入間　須田甚作　加藤篤義
山崎茂十郎　平沼正三
小島定吉　砂村平吉
比企　簑輪萬五郎　杉浦淸助
森田周藏
秩父　林才作　新井定三郎
加藤芳三郎　松本仙三郎
新井源一郎　雨宮富藏
井上久之助
兒玉　橋本丹藏　金井總平
田端勘九郎　浦部良太郎
木村九藏　井澤長平
卜部鐵三郎
大里　金井常八　大槻久三郎
黑瀨與市　石川政四郎
北埼玉　駒宮治之助　羽島粂藏
長谷部英三郎　中島五郎

埼玉縣入間郡吾妻村養蠶組合規約

（其二）

第一條　本組合は埼玉縣入間郡吾妻村に於ける養蠶家を以て組織す。

第二條　本組合の名稱は埼玉縣入間郡吾妻村養蠶組合と稱す。

第三條　本組合員は德義を重し勤儉を行ひ共同一致養蠶業上の改善發達を圖るを以て目的とす。

第四條　前條の目的を達するため組合員の行ふ事業左の如し

一、桑園の整理春秋蠶專用桑園の設置、桑樹の病蟲驅除豫防の桑園の肥培耕耘等管理を周到ならしむること。

二、蠶種、肥料、桑苗、蠶具、藥品、木炭、其他養蠶上必要なる物品の共同購入を行ふこと。

三、蠶病消毒は技術員監督の許に必ず蠶室、蠶具の消毒を實施すること。

四、優良なる蠶種の種類を選擇して之を組合員一般に飼育せしむること。

五、蠶種共同貯藏及共同催靑を行ふこと。

六、稚蠶共同飼育を行ふこと。

七、養蠶中は組合員相互に巡視して研究し特に注意すべき事項を發見せしときは之を組合長に報告し組合長は時期を失せず組合員一般に注意すること。

八、共同殺蛹乾繭を行ふこと。

九、產繭の共同販賣を行ふこと。

一〇、蠶種製造所を特設し該製造所に於て成績佳良なる中は之を組合員一般に飼育せしめ其他の一般養蠶家に實費配布をなすこと

一一、桑園、種蠶、產繭、生絲等の品評會を開設すること。

第五條　前條第一、第三、第五、第六、第八、第十、第十一號に掲げたる事項に付最も佳良なる成績を擧げ而して一般の模範となる可きもの又は品質優良なる繭絲を生產するものに對しては獎勵の爲め別に定むる規定に依り賞與を授くることを得。

第六條　本組合は組合の基礎を鞏固にし且組合不慮の災害に罹りたるとき救濟の目的を以て春秋蠶繭壹貫匁に付金壹錢を積立て基本財產となすこと。

第七條　本組合に左の職員を置く。
組合長　一名

名稱と差誤

又昔とか大和姫とか國語で云ひ馴された耳にバタ臭い名前をもつ蠶種や繭があるので耳馴ない處へ發音の差誤を起し飛んだ滑稽を演ずることをブランデービールであるとかバットシキシマであるなどゝ髯を生した養蠶教師が眞面目に說明してゐる近頃も黃色の佛語のヂアンヌと白色の伊大利語のピアンコを發音上雜種させてヂアンコと云ふ種は何國の原種であると意氣込荒く尋ねたから「ヂアンコ」は世界到る處の產で飜譯して「アバタ」と云ふて我國でも明治以前には隨分流行した種であると答へて前述の原語を話してやつた。

副組合長　一名
幹　事　一名
調査委員　二名

第八條　各職員は名譽職にして組合員中より互撰し其任期は各壹ヶ年とす但し再選するも妨なし。

第九條　組合長は組合全般の事務を掌り副組合長は組合長を補佐し組合長事故ある時は其職務を代理す幹事は組合長の命を受け組合全般の事務に從事す但正副組合長共に事故あるときは其職務を代理す。

第十條　調査委員は組合員の共同販賣す可き產繭、生絲の品質其他組合事務全設の調査に從事し其結果を組合長に申告するものとす。

第十一條　本組合の經費は組合員の負擔とす。

但し賦課徵收方法は每年度豫算議定の際議決を經て之を定むるものとす。

第十二條　本組合は每年二回以上總會を開き業務の執行方法及豫算の議定業務の成績並に決算を報告し承認を得るものとす。

第十三條　組合長に於て必要と認むるか又は組合員五分の一以上より請求ありたるときは臨時總會を召集することを得。

第十四條　本組合員にして組合規約に違犯し若しくは組合の體面を汚し而して不名譽の行爲を來せしものは總會の決議を經て除名することあるべし。

但し除名者は本組合に關する權利義務なきは勿論積立金其他組合共有備品の割戾を請求することを得ず。

埼玉縣吾妻村養蠶組合積立金規約

第一條　本組合積立金は組合の基礎を鞏固にし及組合員不慮の災害に罹りたるものを救濟する爲且滿期後組合記念桑園の特許若しくは蠶室改造資金に充つるを以て目的とす。

第二條　積立金額は各蠶期に於ける產繭壹貫匁に付金拾錢とす。

第三條　積立金開始は大正二年三月一日とし積立金滿了期を大正十二年三月二日の滿十ヶ年とす。

第四條　積立金を受入れたるときは組合長に於て積立證券並に原簿に記入捺印し之を證するものとす。

第五條　積立金保管は株式會社所澤銀行とし別途會計となすこと。

但し拂戾さんとするときは總會員過半數以上の同意を得るものとす

人工養蠶裝置の飼育法につき一言す

秩父町　松本熊太郎

人工育と稱する養蠶速進器は東京府下に於て横田某の發明にかゝり一時蠶界に喧囂たることありしも器の一長一失は結局試驗中に葬り去られたるが其後秩父の松本熊太郎氏横田氏に學び研究に研究を加へ幾多得失の曉に於て漸く其の利用法を發見し横田氏の同意を經て特許權の讓渡を受け今は自身人工育裝置器の權利者となり出でゝは公益の爲め該器飼育の擴張を謀り居ては生徒を養成して技術の蘊奥を傳ふ少費多獲の飼育器としては近代科學の粹を拔きたる養蠶速進器と思はるゝ儘殊に一代交雜種製造に際し日歐支種同時に掃立て雌雄發蛾期の調節を謀る上に於ては便利なる器と信ずるより玆に同氏の研究を公表し世間養蠶者に紹介せんとするものなり。

大正六年五月二十五日　埼玉縣蠶業取締所秩父支所主事記

我が人工養蠶飼育法は第一に手數掛らず費用少く蠶兒は益々健康に科學的理想の養蠶法と云ふ事は左記によりて判斷せられんことを望む。

斯く面白く實利的なる飼育法が發明されて以來玆に多年何故に世間に普及せられざりしか實に不思議に堪へぬ次第であります勿論研究中の人工育は概して給桑に過ぎ回數も多く隨て溫度の權衡を得ず空氣の新陳代謝十分ならざる傾がありました故に折角の利器も遂に喰はず嫌ひに一笑に附されて結果利器の眞價を現はすことを得ざる次第でありました。

私の今日迄實驗研究の方法は左表の如く給桑回數一齡中二十一回二齡中十四回三齡中十七回合計五十二回で全く三眠の桑止め迄往く然るに普通溫暖育又は天然育は掃立より三眠迄少くも給桑回數は百回以上が一般の通則であり隨て三眠迄の給桑量は蟻量四匁に對して十三四貫は要するなれども我が飼育は約十貫にて充分なり又蠶室の溫度としても普通八疊間は平均七十度とする其木炭量に對して我が人工育の量は殆んど其の半額にて事足ると事ふ割合裝置内の溫度は最高時九十度より百度とし炭火の消耗と共に次第[illegible]の減ずるを可とす養蠶に最も大切なる空氣の新陳

遺傳學の講師田中博士は遺傳に關する研究論文を提出し博士の學位を授與せられたるなり
本講義録の遺傳學は博士論文を判り易く飜譯せるものと云ふも過言ならす一日も早く讀むへし

第二回講習生募集（一月開校 六月卒業）

家を建てるには土臺が肝心!!! 蠶を飼ふて失敗ない様にするは基礎學科が必要!!! 此の必要を充たして餘りあるのは本會發行の此の

最新蠶業講義録

本會會員は二圓五十錢
會員外三圓五十錢

蠶業通論	六章七十六頁
養蠶法	三編廿二章二百二十六頁
桑樹栽培法	三編十八章百六十頁
蠶體生理論	五章四十五頁
蠶病論及豫防法	七編廿章百十八頁
遺傳學	二編十九章百廿四頁
土壤論	九編三十九章二百十二頁
製絲法	十章百三十五頁
肥料學	八章百十五頁
屑物整理法	六章五十八頁
家事經濟	八章九十六頁
農業大意	八章八十五頁
蠶業法規	十九章四十八頁
蠶業經濟	八章六十七頁

見よく我國第一流の博士學士諸先生が熱誠を罩めたる其講義録は全部千六百餘頁に上れり單行本一科分とするも三圓四圓の價を拂はざれば手にし難き講義を而も僅々の講習料を以て十四科目專修の便益あるは本講義録の特長にして是本會が聊か斯界に誇りとする處今や燈火親しむべき候となりぬ研學修養の最好機は迫れり一日も早く申込みて人後に陷る勿れ

發行所　東京市神田區錦町三丁目十八番地（振替口座東京一二〇六番）　大日本蠶絲會

▶蠶業界空前の名著出づ◀

▲本書は是れ品種改良の一大權威▼

農學博士田中義麿君著

蠶の遺傳と品種改良

全一冊

菊版洋裝意匠
優美印刷鮮明
精巧圖版七葉挿入
定價金貳圓
小包料八錢
但朝鮮、滿洲、清國は送料三十錢

○本書推奬の理由

種類問題が喧しくなつて來てヤレ蠶の遺傳ヤレ品種の改良と誰も彼れも口にするけれど、さて其遺傳や品種の如何なるものであるかを知つて居る者が果して幾何あるであらうか、盲蛇同樣譯も判らずに只大膽に之を口にし筆にする者比々皆然りと云ふに至りては只呆るゝの外ないではないか、著者は深く之を遺憾と爲し多年の研究と實驗とに依りて得たる新智識新學理を基礎として之が著述に着手せられ茲に之を完成して公刊せらるゝことゝなつたが、世に蠶の遺傳品種に關する著書なきにあらざるも先人未發の眞理を實地問題に應用して何人にも直に之が效果を收めしむるやう懇切に說き明したものは本書の外にあるまいと思ふ、由來博士が溫厚篤實其學に忠なるの人たることは定評の存する處で蠶の遺傳に關し其造詣の深きこと恐らく世界に二人とは得られまい、吾等は我蠶業界に斯樣な篤學者を得たるを誇りとすると同時に本會圖書部が此名著を出版するを得たるを深く光榮とし本誌數萬の讀者諸君に是非一讀せられんことを御奬めして止まない。

本書の內容

緒言
第一章　蠶に於ける遺傳研究史
第二章　蠶に於ける遺傳的性質
第一節　卵
一　卵色
(1)不越年卵の色
(2)越年卵の色
二　卵形
三　卵の膠着性
四　化性
第二節　蠶兒（幼蟲）
一　斑紋
(1)基礎斑紋
(2)附加斑紋
(3)合成斑紋
(4)赤蟻系の斑紋
(5)斑紋の識別
(6)斑紋色素の組織學的分布
(7)斑紋の發達
二　有瘤性
三　油蠶性
四　眠性

目次

五　飼育日數及び蠶體量
第三節　繭
一　繭色
(1)白
(2)有色繭
(a)黃繭
(b)綠繭
二　繭形及び大さ
三　同功繭
四　其他の繭質
五　蛹體量
第四節　蛾
一　斑紋
二　眼色
第三章　在不在說と蠶の遺傳因子
第四章　最簡單なる遺傳
第五章　不完全優性
第六章　優劣法則の適用せられざる遺傳
第七章　雜交に因る新性質の發現
第一節　白飛白、姬飛白及び普通斑の合成及分解
第二節　暗色斑及黑縞斑
第三節　繭色
第八章　相關遺傳總說
第九章　完全相引
第一〇章　完全相反
第一一章　複對形質（多角對形質）
第一二章　繭色の遺傳と抑制因子
第一三章　生殖細胞式の雌雄二型
第一節　Q—Y相關遺傳
一　Q—Y相反
二　Q—Y相引
第二節　M—Y相關遺傳
一　M—Y相反
二　M—Y相引
第三節　S—Y相關遺傳
一　S—Y相反
二　S—Y相引
第四節　總括
第一四章　母親遺傳（偏母遺傳）
第一節　偏母遺傳を爲す卵色
第二節　化性
第三節　母親遺傳の原因と其研究上の障礙
第四節　母親遺傳を爲さゞる卵色及卵形
第一五章　多元遺傳
第一節　多元遺傳の種々なる場合
第二節　融合遺傳と多元遺傳
第三節　特種の多元遺傳
一　斑紋に對する特種多元因子
二　繭色に對する特種多元因子
三　眠性の多元因子
四　卵色の多元遺傳
第一六章　獨立遺傳を爲す諸性質
第一七章　遺傳せられざる變異と畸形
第一八章　「モサイク」蠶と突然變異
第一九章　同一遺傳質に因る諸性質
第二〇章　遺傳質の所在と蠶の染色體
第二一章　單位形質の意義
第二二章　一代雜種論
第一節　雜種とは何ぞ
第二節　一代雜種の由來
第三節　一代雜種の長所短所
第四節　一代雜種の優良なる所以
第五節　雜交の程度と價値
第二三章　一代雜種の製造
第一節　品種、系統及個體の選擇
第二節　本末を誤る勿れ
第三節　發蛾期の調節
第四節　雌雄の鑑別
一　一顆別種繭容器
二　雌雄鑑別
第二四章　二代以後の雜種
(1)幼蟲時代の雌雄鑑別
(2)蛹時代の雌雄鑑別
(3)發蛾後の雌雄離
第二五章　雜種の固定
一　劣性の固定
二　不完全優性の固定
三　完全優性の固定
(1)混合育に依る法
(2)一蛾育に依る法
(3)簡易固定法
第二六章　蠶の遺傳及育種研究法
第二七章　各性質の遺傳
一　蠶卵の性質
二　幼蟲の性質
三　繭の性質
四　蛾の性質
文獻目錄
繭絲平均纖度乘率表
人工孵化法
變異に關する諸公式

發行所
東京市神田區錦町
三丁目十八番地
大日本蠶絲會圖書部
振替貯金口座東京一二〇六番

▲本書は是れ蠶業界の明星▼

代謝は該器の特色にして實に理想的此上なく如何なる飼育法とても加はる事は得ざるべしと信ず但し此の飼育法は催青より三眠迄の間にして以後は裝置內より取り出し普通育によるを安全とす四齡以後を人工裝置內にて飼育するものあれども容積に比し蠶兒の體量肥大なる故に結局算盤に出逢はぬ故に三眠起は絕對に裝置內飼育は不可なり此の點は人工育者の特に注意すべき事項なり兎に角普通育の四齡桑付迄二十二三日を費し給桑量、回數又は木炭以下雜費を多額に要するに當人工育は僅かに其半額の日數及び附屬物にて用辨じ蠶兒は健康無病に發育すると云ふ上より見て蠶界決して等閑にすべき問題にあらず況んや一代交配の製造について歐洲種支那種同時に掃立て而して發蛾時期の調節等は實に自由自在彼の冷藏庫を造り繭又は蛾の一時抑止するより見れば寧ろ衞生的にして完全なるもの人工裝置器は稚蠶飼育器として實に上乘なるもの決して手前味噌にはあらざるべし左に飼育標準を示さん。

記

一齡

目次	最高溫度	給桑時	給桑回數	一回の量（匁）	一坪桑量（匁）	蠶座坪數（尺坪）	除沙分箔	剉桑寸法	摘要
一日	九〇	午前十一時	一	一五	五	三	掃立	方一分	
	九〇	午後三時	一	一五	五	三	—	同	
	九〇	同七時	一	一五	五	三	—	同	
	九〇	同十一時	一	一八	六	三	—	同	
計	—	—	四	六三	—	—	—		
二日	九〇	午前四時	一	一五	五	三	—	方一分	
	九〇	同八時	一	三〇	五	六	分箔	同	
	九〇	同十二時	一	三〇	五	六	—	同	
	九〇	午後四時	一	三〇	五	六	—	同	
	九〇	同八時	一	三〇	五	六	—	方一分五厘	
	九〇	同十二時	一	三六	五	六	—	同	
計	—	—	六	一七一	—	—	—		
三日	九〇	午前四時	一	三〇	五	六	—	二分五厘	
	九〇	同八時	一	六〇	五	一二	手入	同	
	九〇	同十二時	一	六〇	五	一二	—	同	
	九五	午後四時	一	七二	六	一二	糠入	同	
	九五	同八時	一	七二	六	一二	—	同	
	九五	同十二時	一	七二	六	一二	同	同	
計	—	—	六	三六六	—	—	—		
四日	一〇〇	午前四時	一	九六	八	一二	—	二分五厘	
	一〇〇	同九時	一	一二八	八	一六	除沙分箔	同	
	一〇〇	午後一時	一	一二八	八	一六	—	同	
	九五	同四時	一	八〇	五	一六	—	同	
	九〇	同九時	一	四八	三	一六	—		就眠停食
計	—	—	五	四八〇	—	—	—		

一齡中（食桑時間 八十二時間 停食時間 十七時間） 給桑回數 二十一回 給桑量 一貫八十匁

休眠中溫度七十度以上八十度迄とす但し天候により裝置を開くを可とす

二齡

目次	最高溫度	給桑時	給桑回數	一回の量（匁）	一坪桑量（匁）	蠶座坪數（尺坪）	除沙分箔	剉桑寸法	摘要
五日	九〇	午後二時	一	六四	四	一六	—	二分五厘	
	九〇	同七時	一	六四	四	一六	—	同	
	九五	同十二時	一	九六	六	一六	—	同	
計	—	—	三	二二四	—	—	—		
六日	九五	午前四時	一	九六	六	一六	糠入	三分	
	九五	同九時	一	一一二	七	一六	—	同	
	九五	午後二時	一	一六八	七	二四	除沙分箔	同	
	九五	同七時	一	一六八	七	二四	—	同	
	九五	同十二時	一	一九二	八	二四	—	同	
計	—	—	五	七三六	—	—	—		
七日	一〇〇	午前四時	一	一九二	八	二四	糠入	三分	
	一〇〇	同八時	一	二一六	九	二四	—	三分五厘	
	一〇〇	同十二時	一	二八八	九	三二	除沙分箔	同	
	一〇〇	午後四時	一	二五六	八	三二	—	同	
	九五	同八時	一	一六〇	五	三二	—	同	
	九〇	同十二時	一	九六	三	三二	—	二分	
計	—	—	六	一、二〇八	—	—	—		

二齡中（食桑時間 五十八時間 停食時間 十五時間） 給桑回數 十四回 給桑量 二貫百六十八匁

蠶之種類號

裝訂優美和綴
四六二倍版
定價送料共貳圓拾貳錢
但臺灣、樺太、朝鮮、滿洲、清國は貳圓四拾錢

再版謹告

熱狂的歡迎を受けたる本號は既刊部數全く盡きて今や一部の殘餘も無之候然る處注文山の如く來て何故速に送本せざるかとの叱責を受くること數知れず日々詫狀を出すこと數十通の多きを算する狀態に有之候之れを以て本號は斷じて再版せざる積りなりしも斯くては啻に熱心家の希望に背くのみならず再考し來れば本號發刊の趣旨にも戾る次第と存候故圖書部員一同協議の上更に幾多の犧牲を拂ふて茲に再版すべく目下印刷中に有之候遲くも本月下旬頃迄には出來上り可申候に付陸續御注文被下度此段稟告候也敬具

感謝々々吾等は

河西蠶業試驗場福島支場長の著

實驗 秋蠶飼育と一代雜種製造法 を

讀んで秋蠶飼育と一代雜種の製造に一大成功を收めたりとは熱心なる當業者よりの謝狀今や是れ秋蠶飼育の眞最中なり敢て問ふ諸君は夫れ何れの秋蠶書に依て無限の大利を收めんとせらるゝかを

（本書の定價一圓廿錢送料八錢）

發行所 東京市神田區錦町三丁目十八番地
大日本蠶絲會圖書部
振替口座東京一二〇六番

三齡								
八日	九五	午後 三時	一	一九二	六	三二	―	三分
	九五	同 八時	一	二二四	七	三二	―	同
	九五	同 十二時	一	二二四	七	三二	―	同
計	―	―	三	六四〇	―	―		
九日	一〇〇	午前 四時	一	二五六	八	三二	糠入	三分五厘
	一〇〇	同 九時	一	二八八	九	三二	―	同
	一〇〇	午後 二時	一	二八八	九	三二	―	同
	一〇〇	同 七時	一	三八四	八	四八	除沙分箔	四分
	一〇〇	同 十二時	一	三八四	八	四八	―	同
計	―	―	五	一、六〇〇	―	―	―	
十日	一〇〇	午前 四時	一	四三二	九	四八	―	四分
	一〇〇	同 九時	一	四三二	九	四八	―	四分五厘
	一〇〇	午後 二時	一	四八〇	一〇	四八	―	同
	一〇〇	同 七時	一	四七〇	一〇	四八	―	同
	一〇五	同 十二時	一	五七六	一三	四八	糠入	五分
計	―	―	五	二、四〇〇	―	―	―	
十日	一〇五	午前 四時	一	五七六	一三	四八	―	五分
	一〇五	同 九時	一	七九二	一二	七二	除沙分箔	同
	一〇〇	午後 一時	一	五七六	八	七二	―	同
	九五	同 五時	一	二八八	四	七二	―	四分
計	―	―	四	二、二三二	―	―	―	

三齡中（食桑時間　七十四時間　給桑回數　十七回
　　　（停食時間　十九時間　給桑量　六貫八百七十二匁

以上掃立より四齡桑付迄日數　十一日一時間

同　給桑回數　五十二回

同　給桑量　十貫百二十匁

注意　最高溫度とは炭火の最高溫度を云ふものにして室內の定溫度にはあらず。

大正五年度埼玉縣入間郡蠶種同業組合業務成績

神保書記報

（一）組合員數

營業別	本年度	前年度	對比 增	對比 減	附記
蠶種製造	一一八	一一二	六	―	休業者を含む
計	一一八	一一二	六	―	

備考　加入は新規起業者とす。

（二）製造數量並價格

營業品種別		本年度 製造數量	本年度 價格	本年度 單價	前年度 製造數量	前年度 價格	前年度 單價	對比 增 數量	對比 增 價格	對比 減 數量	對比 減 價格
內地向	特別蠶種	五五六、三一六蛾	一三三、六一二、九五三	〇、二四	四六一、二七六蛾	七八、四七六、六九二	一七〇	九五、〇四〇	五五、一三六、二六一	―	―
	普通蠶種	一五、一七五枚	一九、七二七、五〇〇	一、三〇〇	一二、〇八七枚	一七、〇〇〇、一〇〇	一、四〇〇	三、〇八八枚	二、七二七、四〇〇	―	―
	計	―	一五三、三四〇、四五三	―	―	九五、四七六、七九二	―	―	五七、八六三、六六一	―	―

備考　本表中には蠶絲業法に依る檢査に合格せざるもの特別蠶種三六一、二三九蛾普通蠶種六二九枚を含む其他は販賣りせ。製造蠶種の六割は組合區內に需用され他郡へ二割縣外へ二割を移出せらる縣外の需用先は東京神奈川千葉山梨等とす。

（三）營業品の檢査成績

蠶絲業法に依る檢査を受くる故に組合は檢査を行はず。

（四）檢査施行の狀況及檢査の營業品に及ぼしたる効果　前同斷

（五）組合經費徵[illegible]況並滯納額滯納者に對する處分の顚末經費の徵收上に於ては別段困難なし。

（六）違約處分をなしたる員數處分種類及其事由

該當事項なし。

（七）仲裁判斷若は調停を爲したる事由及其顚末

該當事項なし。

（八）組合未加入者にして訴を提起したるときは其顚末

該當事項なし。

（九）組合を組織せる營業に關する商況

絲價の昂騰に伴ひ營業者の意氣旺盛なり然れ共一面蠶品種改良の聲昂りたるを以て品種の不良なるものは其賣行捗々しからず。

（一〇）以上の外業務執行の狀況及其成績を認むるに必要なる事項

（イ）蠶種冷藏事業

先年蠶種冷藏庫建設せる結果は其好果甚大にして就中本年度にありては生種製造及交雜蠶種製造上には著しく其好果を認め且普通養蠶者に對し直接に間接に之が裨益を與へたる事尠なからざりしなり。

（ロ）講話會の開催

時代の趨勞に鑑み技術官を聘し交雜蠶種製造に關する講話會を開催せるに直接其好果を認めたり。

（ハ）病毒豫知檢査

蠶種製造用に供する原蠶種に付ては促進せし發蟻の檢査を行ひ種繭にありては促進發蛾檢査を行ひたるに何れも有利なるを認めたり。

（ニ）人工孵化

未曾有なる絲價昂騰の結果は勢ひ掃立蠶種の不足を來したるを以て組合は之が應急策として鹽酸藥を用ひ三千枚の蠶種に付人工孵化を行ひ之が不足を補ひたり、

（一一）年度末現在基本財產（積立金高）及其の內譯並信認金を徵する組合に在りては其總額

基本金積立額金六十三圓四十錢二厘

冷藏庫一棟見積額金三千圓

產業講習規程制定

本縣に於ては七月十七日告示第百八十四號を以て產業講習規程を左の通定め告示せられたり。

產業講習規程

第一條　產業の改善發達を圖る爲團體又は個人に於て講習會を開催し縣に講師の派遣を申請せんとするときは別に定むるものの外本規定に依る

第二條　講師の派遣を請はむとする者は左記事項を具し郡役所及町村役場を經て開催二十日以前に知事へ申請すへし

一講習科目、一講習期間及時間、一開催の場所、一講習生の豫定人員、一講習生の資格

第三條　講師の派遣に要する費用は申請者をして負擔せしむることあるべし

第四條　講習を修了したる者には講師の薦告に依り修了證書を授與することあるべし

入間郡蠶種同業組合事務員談

組合員本年度の製造ですか春夏秋を通じて特別蠶種五百五十萬蛾普通蠶種一萬枚位の製造は出來ませう黃繭ですか黃繭は先づ製造額の三割は大丈夫出來ます其の主なるものは國蠶歐五號埼黃四號黃石丸でず掛合蠶種の製造額ですか三割乃至四割でせう生種としては左樣特別三萬枚位です名稱は從來の日本錦白龍新浙江紹興などが主です掛合ものゝ賣行きですか一代指定ものは平均一圓八十錢位で豫約されます此の分では希望數の半數は不足しませう黃繭種の賣行きは左樣黃繭は春としては製造の八割はあつても困りますまい秋とてはあまり望みがありませんな（神保生）

埼玉縣辭令

六月三十日　田中武助
蠶業取締吏員を命ず月俸十七圓給與
蠶業取締所熊谷支所勤務を命ず。
七月九日　本庄支所　關根要一
川越支所　鈴木東一郎
蠶業取締吏員を命ず月俸十六圓給與頭書支所勤務を命ず。
七月十九日　勳六等功五級　引地佐六
蠶業取締吏員を命ず月俸三十五圓給與
福井縣技手　引地佐六
任埼玉縣技手月俸一圓給與、勸業課勤務を命ず。
十六圓　七月二十三日　松山支所　逸見章
十六圓　川越支所　日向傳作
十五圓　同　相川展三
蠶業取締吏員を命ず月俸頭書給與(頭書)支所勤務を命ず。
二十圓　七月二十五日　熊谷支所　高野繁藏
二十圓　本庄支所　荒木昇太郎
蠶業取締吏員を命ず月俸(頭書)給與頭書支所勤務を命ず。

蠶種檢查吏員任命

浦和支所

疋田 清　福島 森平　寺澤 正治　片岡 中司
抜井 常吉　松本 眞太郎　福島 巳之助　伊藤 數衞
中神 喜美　中神 博　齋藤 儀一郎　鷹野 海三郎
齋藤 格三　竹内 常吉　月田 伊太郎　伊藤 兼治
赤沼 宗治　島田 與四郎　島田 柳　木村 登久
宮崎 喜平　細村 英一　太田 久四郎　荒井 善吉

川越支所

畑 源吉　加藤 歳三郎　三木 喜久治　山根 良朔
吉澤 一太　小川 信治　山本 忠治　鯉沼 幸平
吉田 松太郎　砂村 愼一郎　松田 作三　龜井 角藏
原 榮作　新井 友助　田中 仁平治　田中 淺三郎
内田 學　内野 敏二　都倉 初三　長峯 武重
手塚 一郎　桑原 吉太郎　淺見 清　蓮田 庄平
小久保 勘吉　皆川 金平　澤田 謙三　大澤 荘助
大野 鳳藏　岩田 嘉六　伊藤 茂明　湯本 菊次
淺見 輝司　清水 利治　關田 豐作　市村 喜代次
須永 新藏　内野 金作　吉田 角藏

松山支所

山下 長松　藤野 虎之助　大島 近　布施田 三郎
清水 佐三郎　小高 英一　早川 勝一　矢部 梅藏
藤縄 爲治　鈴木 高一　野本 喜一　小林 定吉
吉田 德三郎　陸田 魁三　淺見 治平　森 長治
大島 春吉　小高 扇五郎　小室 茂雄　柿澤 市太郎
松崎 確治　中島 重司　長島 忠吉　小川 金之丞
新井 一治

秩父支所

新田 鎌太郎　内田 貫策　笠原 重隆　加藤 春吉
町田 武助　菅谷 壽三郎　内田 武助　齋藤 儀之吉
藤井 福治　黑澤 元次郎　小林 武一郎　原島 友太郎
金室 桂十郎　堀口 金作　町田 一正　田島 久涙
富田 善太郎　關矢 米市　新井 金三郎　河井 槌作
阪上 右重　關根 金　田中 政次　町田 織作
中里 槌藏　峰岸 武平　上原 伊三郎　落合 譽富
笠原 嘉一　辻 鎌司　芦田 幾久惠　萩野 彦市
相馬 輝之　原島 定吉　大畑 勇次郎

本庄支所

内野 理策　植竹 喜一　相馬 清作　倉林 盈雄
小井土 武雄　坂本 剛　飯塚 弘　秋山 永太郎
桑原 安盛　岩田 久三郎　落合 重衞　堀込 慶基
關根 茂雄　山口 榮　小林 爲治　森 平七
荒卷 融　福島 新平　松本 岩藏　岩田 恒次郎
松本 源三　間々田 松太郎　吉野 子之八　茂木 一藏
長谷川 靜　根岸 元治　赤羽 金十郎　天川 元治

栗原 源太郎　倉林 注連太郎　山口 實　吉橋 通平
西本 敎平　早野 武　新井 起株　平野 滿雄
青木 傳平　笠原 武矩　橋本 領　高山 貞義
春山 卓治　齋藤 五郎　松本 利一　中村 清代松
酒井 安松　人見 金藏　荒井 勝五郎　關根 六郎
大野 業治　小林 義平　山本 道夫　飯野 庄三
神岡 治三郎　塚本 盛吉

熊谷支所

河田 貫一　八木原 勝次郎　柿沼 林藏　福島 六左衞門
石田 森一　内田 正美　小野澤 廣造　千葉 直人
沼尻 美洋郎　中村 鵬介　飯島 九藏　井澤 義四郎
高橋 萬壽　飯田 豐　細谷 清松　武内 重喜
岡 甚太郎　安藤 勇　武田 喜一　吉田 康太郎
長島 重松　伊藤 健太郎　山田 敬治

加須支所

鈴木 貫一　齋藤 吉藏　田中 元次郎　角田 喜三郎
矢澤 民八　柿沼 元次郎　岩崎 平三郎　田口 英太郎
阿部 吉清　早川 幸太郎　森山 文次郎　小林 茂
市澤 英　坂田 一白　夢川 勇治　落合 利太
堀口 善松　武村 彌三之助　倉持 重次郎　小野田 安右衞門
内田 敏雄　福島 京之助　關根 佐市　松島 博次
栗原 武　高瀬 茂郎　栗原 正太郎

製絲教師任命

本縣に於ては左記四名を臨時製絲教師に任命し專ら碓氷社甘樂社所屬產業組合製絲工場に派遣し傍ら屑繭整理講習會に派遣實地指導に努めり、

鮫島つね　守家孝
斑目ミツ　菊地乃枝

製絲同業組合事務所移轉

本縣製絲同業組合今般定款を變じ從來大里郡熊谷町に置きたる事務所を浦和町縣廳内に移轉し八月より專任書記に大成常太郎氏を任命し事務の敏活を期せり。

秋蠶に就ての話

この秋も交雜種は盛かんで例へば片倉組が一代雜種の新規の秋蠶種を作り冷藏して、夫れを適當の時宜に出して掃かせるのもあるが、外國種は勿論在來種のも殊に春蠶よりは病毒が多いから餘程注意して殊に生種の如きものは暫時冷藏して檢査を受くべきものである、養蠶家は原蠶種をあらゆる方面より調査しなければならぬし、蠶種を早くのうち冷藏してあるものは早く取出し發蛾せしめ檢査を受けなければ危險である。店頭に釣つてあるものや、俗に云ふ一に二安三種的の種屋に干渉されてはいかぬ。

催青の中では乾燥、溫度、濕度が深く關係して蠶兒の素質を健全にも不健全にもするので、本庄に建設された木村九藏君の洋行土產の蠶種貯藏庫の內では、溫度が七十五度八十度以下を保たしめ、乾濕の差五六度あるがこれが適度で健全に胚子が發育し、從つて健蠶兒を得らる。飼育に就ては、俗諺に「蚊帳を質に置けと」云ふがこれ夜も不眠不休で家族を半夜交代位にして七十五度位の溫度を保たせると共に給桑を充分にしなければいかぬ。十年以前は秋蠶が當つたと云ふのは其頃は盆踊が盛かんで若い者は皆戶外へ出て踊りに夢中になつてゐる宅には老人ばかり殘る老人も唯往昔の盛んに踊つた時分を追想しても、今は詮なき事であるから蠶に桑でもやる、卽ち肝要な夜間給桑が出來るから血は當つたのである。飼育中に氣候の劇變の注意は勿論、この蒸熱の際恰も身は釜中に在る如く流汗淋漓拭ふ暇あらず、五體の置き場にも苦しむ時に血兒も煩々情を起さしむるから、通風の爲め焚火するとか床板をハギて床下の風を導くやうにするは一の方法である云々。

談は增々佳境に入ると共に、時は刻々と經過する。繭市場を見物したいと云へば「いま案內させやうゐー君產米檢查吏員が出來てゐる今日、成繭の檢查吏員がきが至當の施設ではないかなー」秋蠶に就きて種々有益な話があつた後案內されて

繭市場へ

本庄と云へば繭の集散地の焦點であるのを直覺する日本一の場所である東洋一の場所であると思ひながら支所を後にしてペンキ塗りの事務室に來意を告げた事務員が十圓札束を切つてごし／＼賣手に傳票と引換に仕拂つてゐる三百圓五百圓千六百圓と蟻の行列のやうに跡から跡から絕え間がない事務員はシャツ一つになつて汗を流し乍らやつてゐる今年は配當が一割五分位出來ます上景氣ですからね昨年と對照して見ますと。

春繭取引高

大正五年六月八日開場同二十日閉場
總計二六、七九二貫一二〇匁　一三六、八六〇圓八一
大正六年六月十日開場同月二十四日迄取引高
計四一、〇五五貫四四〇　二七八、三三〇圓五二

市場の手數料は賣手から取らないで買手から一萬圓以下が一圓二萬圓以下が八十錢二萬圓以上が七十錢で乾燥用のボイラーも二臺からあるので殺蛹料が一貫目四錢本乾燥料が十四錢で荷送料は二錢五厘その材料が三錢であるまた買場から來てゐる人足達の食料もこゝで賄ふ市場の賣買場に案內された間口十七間の大建物開けばこの位なのが三棟もあるとの事中央に繭のセリ臺があつて兩側に買主が腰掛けてゐる其臺に人足が籠を載せ袋を開くと一齊に繭が擴がる買主が各自指先で繭に觸れ塗桶の蓋樣なものの裏に買値を白墨で書くと夫が開札する若者の許に集まる若者は片肌ぬきで濁みたる聲を張りあげ高價と思はるゝを讀上げる夫で賣主が不服を云へばソイ／＼云ひたてゝせり臺の一方に投り出されるまた賣手が十錢位安く買はれたと思つても景氣をつけられた賣らなければならぬやうに仕向けられる買はれた繭は丁寧に扱はられ衡器の方に運搬されてこゝで金錢仕拂の傳票に交付されるその間早きこと一分とかゝらず繭を競臺にあげて買手三人が見て値段讀上げ迄僅か三秒である。何故に買手が入れた値を公示しないだらふ、某市場で一旦競室に上つたが値が定らず破談となつたから市中の買物に行つたが又不調不得止もとつけられた値でよいと市場に逆戻りした時先きの買手は見る必要なしと見向もしなかつた例が此處になきを祈るである乾燥場荷送場等隈なく見た實に繭が畑のさくを切つた樣に並んで場內所せきまである恰も白繭黃繭が浪打つて寄せてくるかとばかり見事である自分は市場の事務員に厚く禮をして出て梅雨は止んで街燈が曇つた空にパアと點いた頃であつた。

兒玉へ

行かんものと電車停留場に待合する、不圖見ると蠶絲の光埼玉版があつた米國の富豪サンライヂング石油會社々長が橫濱に來てある町を散歩した時靴の先に石油鑵が突掛つた整理のない日本人よ路に鑵を投出して置くとはと怒氣を含んでその鑵を白眼れば自分の會社で造つたものであるから萬里の覊旅で戀人に邂逅しやうでそれを手に取り揚げて軒下に入れてやつたのとの事や、山路愛山が山陰道の山の中の上さな停車場に自分の雜誌獨立評論があつた時は實に我が愛兒に異鄕に逢つて心地したとの話をいまこの停留場で感じた、あゝ蠶絲の光よ多くの人に愛讀せられよと雜誌を撫した時電車が來た秩父連峯群馬の翠黛を眺めつゝこの平原を風に吹かれて電車はすゝむあの煙絕えぬ淺間山奇峯で名高き妙義山さては榛名の名山は今や双眸の內にありて窓より右視左觀してゐる間に兒玉に着いた、

塙保己一先生の生家是れより十五丁と記してある石碑を右に見て町に入る町は溫和な振はない晝寢の夢を貪りそうこれか往古兒玉黨の權威を東に振つた名譽の歷史を持つ處であつたかしら小田原北條を震駭せしたあの小高く見ゆる陣見山如何な觀やある。

競進社へ

着いて松井教授に世故馴れた口調を以て應接された今年製造のいろ／＼の繭の標本を見せて吳れて「この肉色のロセオと云ふが面白いのですまたこの眞丸は蕭山は如何ですよい白繭でせうどうですこのバクダは八十顆やつと這入ります、先日生徒がバクダの種つけの時先生どうしても臺紙に付きませんと心配そうに云ふからいや歐洲種は純粹であるなら付ぬが當前ですと云ふてやりましたどうも歐洲種は種を重ねて付たり、付きが惡かつたりする習性が拔けません」バクダと云ふはバクダットの事である話しは廻り燈籠のやうに轉じて蠶室の話となつて本年造りました蠶室は木の香があつていけませんと云ふたり庭にある桑の篠の山の如く積んであるを指して天地がへしの時に用ゆるのですと云ふたあれが腐るとは餘程水分多き地質ですね夫れでは貯桑室は水が來ませうと尋ねた教授は蠶室の下の穴藏樣の高さ六尺長さ十間コンクリート固めの室について斯く語つた。

この貯桑室は底が二重にコンクリートで固めてあるのですが水が滲み出して夫が漸々に増して來て水晶の[illegible]な淸潔な冷い水が胸程に出ますと近所の子供が夫れ學校の穴藏に水が出た泳ぎに行かふとやつてくる深さは平均して水は冷朧と澄み渡り障害物はないから危險な惧れがない親達も安心して子供にそんなめそ／＼泣かず唯さんと學校に泳ぎに行けと奬勵してゐるので始め消防ポンプでかい出したがすぐ翌朝に猶一杯になりましたから其儘にして置きますと秋の末に引き去りまして寒中はからからになります水が一番出ますは子供が時々覗きに來てもう泳げる樣になつたと云ふ八月の暑い盛りですね。等と面白い話を聞かされて競進社を出てまたも本庄へと電車に乘つた暑い／＼風も暑い身も鑠ける所謂鑠金の暑さとは今日であらふ支所へ一寸寄る。

冷藏庫へ

志さした本庄町の外れを橫に入り小學校に添ふて切株のみとなつた桑畑を隔てゝ五間に八間の冷藏庫が佇立してゐる別棟に冷藏庫の管理者が住んでゐる俗塵を離れた見晴しのよい聞けば五州眺められると云ふ處で淸綠の野に一條の白金を布いた樣に見ゆるは坂東太郎だそうな玆處に親子三人が平和な家庭をつくつて居るは丁度陸の燈臺守の感があつてイプセンの海の夫人を一寸聯想する。いづこ見ても若葉青葉の家居なれば強くな當てぞ雨や風神冷蔭庫は郡同業組合の建設で本年入庫した蠶種を郡別で記すと

兒玉郡	四四、六三五	大里郡	二六、八九七
秩父郡	一、二〇〇	北埼玉郡	三、一〇〇
群馬郡	一五、二八三		

時間に制限ある身は往來曹洞宗で怪傑と評せられ今は當地に不鳴不蜚ざる星野和尙の住職せる赤門の寺を山門より目禮して人形師で有名な米福の店頭に足を暫時止め眞にせまる人形の頸を見流石當町の過ぎものと云はるゝだけの價値はありと感服してまたも汽車中の人となつた

編輯より

炎熱赫々たるの候各位御淸康の段奉慶賀候詩人陶靖節先生夏熱を賛して薰風南より來り殿閣微凉を生ずと申し候が苦熱には閉口せざるを得ず候各取締所は母蛾檢査に忙殺され炎威を意とせず孜々と勉むるは避暑と洒落込む脆弱漢や虛榮黨は慚死すべきに候はずや。

每度申上ぐる事ながら本誌も千餘部の愛讀者を得たる今日故蠶種家、蠶具店等の廣告は尤も効果多きは云ふを俟たず候へば奮つて廣告申し込まれたく老婆心ながらくどく申上候。

親愛なる讀者諸君及び寄稿家諸賢の壯健にてこの炎威を過ごし虫聲の唧々たるを聞く秋凉の候を迎へ給はんとを祈り上げ候と共に以誌上暑中御伺ひ申上候頓首

現代優良蠶種提供

	種類名稱			
一代交雜種	日歐一代交雜種	黃繭		
	歐支一代交雜種	黃繭		
	日支一代交雜種	白繭		
在來種	日本種	大巢又昔	優等白玉	
	支那種	支那廿號	特大二十號	諸桂
	交雜種	黃石丸		

代價	一代交雜種（黃繭）	特別蠶種一枚	金一圓八十錢
	一代交雜種（白繭）	同	金一圓三十錢
	在來種	同	金八十錢
	交雜固定種	同	金一圓二十錢

送金期限は八月三十日

埼玉縣入間郡勝呂村
越邊川沿岸一大模範桑園地 盛業館蠶業講習所
館長　山崎茂十郎
振替口座東京一四五六八番

七月號廣告中代價誤植につき訂正せり

繭市場へ

本庄と云へば繭の集散地の焦點であるの

て出て梅雨は止んで街燈が曇つた空にパアと點いた頃であつた。

蠶兒の新飼料發見

桑樹以外に蠶兒の飼料として知られたるは柘、楮、蒲英、波羅門參芹、ラミー、ミツバ、ヘビイチゴ、オセジオレンジ、ニレ、カイデ、カミツレ等の植物なれども之等の植物は單に蠶兒が饑餓に迫りて止むを得ず食すると云ふに過ぎずして殆ど實用的價値を有するものなしと云ふも可なり然るに今回岐阜縣立原蠶種製造所大井支所長藤間大次郎氏の發見せる植物は實に蠶兒が之を好食するのみならず其實險に依れば之を二三齡頃迄給與したるもの〻成績は敢て桑樹に讓らず而して氏が之を發見せる動機とも稱すべきは獨逸は戰亂の結果絹絲の輸入杜絕せるより桑樹以外の植物を以て蠶兒を飼育し遂に成功して立派に絹絲を生產するに至りクレフエルドに資本金二百萬圓マークの製絲原料會社を創立するの計畫ありとの報を聞きたるに在りて爾來氏は山野を跋涉し有らゆる雜草を採取しては蠶兒に給與しつ〻熱心に之が研究を繼續し漸く之を發見せる由なるが其植物は「**秋ののけし**」と稱するものにして其形狀アザミに類せり早春芽を生ずるも霜害に堪ゆる力強きを以て本草の發見は霜害地方養蠶家の爲には眞に一大福音なりと云はざる可からず、農商務の調査に依れば明治三十八年以降大正五年に至る十二年間の霜害が與へたる損害見積價格は一千二百四十一萬圓以上を算し如何なる年に在りても霜害を見ざるは殆んど稀なるを以て若し此「秋ののげし」を養蠶家戶々に栽培して之に備ふるあらば縱令霜害に遭遇することあるも爲に蠶兒を放棄する等の慘を演ずることなくして安全に其飼育を繼續するを得ん、殊に「秋ののげし」は山野に自生する雜草なれば特に畑地に栽培せずとも少しく注意すれば他の雜草の代りに山野に繁茂せしめ得るを以て早生桑を仕立つることなくして之に依り稚蠶を飼育し得るの便ありされば養蠶家の經濟より見るも將亦國家經濟より見るも其裨益の甚大なるは多言を要せざる所にして氏の本草發見は實に蠶業界に於ける空前の大發見なりと云はざる可らず。

ダウチー氏の本邦生絲觀

支那內地に於ける蠶絲業の視察に赴きたる紐育生絲檢査會社總支配人デイ、イー、ダウチー氏は同視察を終へて此程當橫濱に引揚げ來りしが其談に曰く日本の蠶繭は其優良なる者は伊太利繭と略同じきより之に依りて伊太利產絲に代用さるべき優良の生絲を製出する事を得べく又第二位以下の蠶繭にては他の方面に充用すべき生絲を製造せば夫れ相當に其販路多かるべきも爾來日本に於ては生絲を製出するに硬質の水を使用するの弊ありて夫れが爲絲質を損ずるの結果を生ぜるが若し日本の製絲家にて予の案出したる水質調和機と色澤檢定器とを併せて使用するに於ては其弊害を除去して善良なる生絲を製造する事を得べし刻下伊太利は歐洲大戰に參加して產業を顧慮する事能はざるより今日是を機とし日本生絲は伊太利產絲に代りて世界の需要に應じ其販路を擴張する事を得べく右に關して予の希望する處は製絲法に改善を加へて其品質を統一すると同時に其色澤を一層クリヤーするに在り若し上記の如き改良を爲すに於ては日本蠶絲の需要は益々增加し殆んど際限無かるべく殊に米國に於ける生絲の需要は近來非常に增加し單に從來の如く衣服其他の裝飾に用ゐるのみにあらずして實用品として各方面の需要起るに至り生絲の大消化市場となるに至れるより米國は世界に於ける最大の生絲需要者となると共に日本生絲の最大消化市場となりて兩國間の貿易關係は益々濃密となるに至るべし云々。

恐しい眼の病氣

夏になると流行病が恐ろしい、殊に胃腸病には誰も用心する、併し玆に一つ此季節に等閑に附せられてゐる眼病がある、それは結膜乾燥症と云ふので俗に疳眼とも云ふ、發病最初には夜盲症（鳥眼）となり、次で角膜軟化症となり瞳が濁り潰瘍を起して甚しきは失明するに至る、發病と共に聲が嗄れ力が脫け、稀には下痢を伴ふ事もある、主として營養不良から來るのだが烈しい胃腸病や其他の重症後にも發病する、特に夏より商家の小僧連に多く見受けるがやはり營養不良から來てゐるのが八九分を占てゐる、烈日の下に勞役する勞働者にも多く、人工營養によつて養育さる〻嬰兒にもよくある、そして夏になると他の流行病以上に該患者が殖える死ぬ程の病氣でないから、世間では餘り注意を拂はぬが時節柄決して疎かにしてはならない。……とは某專門醫の談

第一回九州各支會聯合品評會

會場　熊本市、**會期**　自大正六年十月二十八日至同十一月三日　**出品數量**　蠶種（特別蠶種二枚以上及其蠶種を生産せる乾繭五十顆以上添付）繭二百五十顆以上、生絲一括と五捻以上（一捻十八匁以上）桑苗百二十本以上、蠶具蠶箔及蠶蔟類五枚以上、蠶網掃立紙及蠶卵臺紙十枚以上其他一個又は一組以上、參考品數量適宜數量未滿のものは審査に附せず　**出品期日**　出品目錄九月末日迄に本會事務所に提出すべし（熊本縣廳內）蠶種（十月廿日限り）繭（春九月三十日限秋十月十日限）生絲（九月十日限り）桑苗（十月二十日限）蠶具（九月三十日限り）參考品（九月三十日）　**褒賞授與式**　大正六年十一月三日

岐阜支會第三回品評會

會場　岐阜縣大野郡高山町　**會期**　自大正六年十月一日至同十月五日　**出品數量**　蠶種（特別蠶種一種類二枚普通蠶種同一枚）以上（出殼繭各五合一代雜種にありては基礎原繭各五合以上、及可成其成繭を添付繭乾繭一升以上、生絲又は玉絲二十匁內外、眞綿四十匁以上、蠶絲業に關する器具器械適宜桑苗十本以上　**出品期日**　出品目錄と共に大正六年八月三十日限り本會事務所（八月二十日より九月三十日迄は大野郡役所內に置く）に送付すべし　**褒賞授與式**　十月一日

青森支會第一回品評會

會場　青森市　**會期**　自大正六年十月二十四日至同十月二十六日　**出品數量**　繭一升、蠶種二枚、生絲玉絲眞綿一束（凡二十匁）、桑苗五本參考品蠶絲業に關する考案標本器具其他製産品　**出品期日**　目錄は八月三十日迄に出品物は十月五日迄に本會事務所（青森縣廳內）に送付すべし　**褒賞授與式**　大正六年十月二十六日

茨城支會第三回品評會

會場　新治郡土浦町小學校內　**會期**　自大正六年十月十三日至同十月十七日　**出品數量**　繭一點に付一升、蠶種一種に付一枚（出殼繭十粒以上添付）生絲、器械生絲四十匁以上、座繰生絲、玉絲二十匁以上、眞綿一點に付二十匁以上、蠶具一個又は一組、桑苗一種に付十本以上　**出品期日**　繭、生絲、玉絲、眞綿は九月五日迄（縣下出品人は各郡市委員部へ）蠶種は九月十五日迄（縣下出品人は所轄蠶業取締所支所へ）蠶具、桑苗及參考品は九月二十五日迄に新治郡土浦町品評會事務所へ差出すべし　**褒賞授與式**

福井支會第三回品評會

會場　福井縣大野郡勝山町　**會期**　自大正六年十一月十日至同十一月十三日　**出品數量**　繭五合以上、蠶種、特別蠶種二枚（出殼繭三十粒以上、一代雜種にありては可成同品質の產繭三十粒以上添付すべし）生絲玉絲二捻一捻約二十匁、眞綿十匁、以上、桑苗十本、蠶具類二點以上但特別のものは此限にあらず、參考品蠶絲業に關する考案、製産品標本等　**出品期日**　目錄は大正六年八月三十一日迄に出品物は同九月二十日より十月十五日迄に當會事務所（九月十九日迄福井縣廳內同日以後は大野郡勝山町役場內）に送付すべし　**褒賞授與式**　十月十三日

宮崎支會第三回品評會

會場　宮崎縣北諸縣郡都城町　**會期**　自大正六年十月十八日至同十月二十日　**出品數量**　蠶種特別蠶種二枚、繭六合以上、生絲玉絲眞綿十八匁以上、蠶具數量適宜、桑苗十本以上、參考品出殼繭及蠶絲業に關する物品標本等　**出品期日**　出品申込書は來八月三十一日迄宮崎支會に、出品物は九月十日より九月二十日迄に宮崎支會北諸縣郡委員部（北諸縣郡役所內）に送付すべし　**褒賞授與式**　大正六年十月二十日

下野支會第十三回品評會

會場　栃木縣下都賀郡小山町　**會期**　自大正六年十一月二日至同十一月六日　**出品數量**　蠶種二枚以上、（出殼繭五十顆以上、一代雜種に在りては兩親の出殼繭各二十五顆以上添付）繭一升以上、生絲二捻二十八匁以上、玉絲二綛二十匁以上、眞綿二束二十匁以上、桑苗十本以上、蠶具數量適宜、蠶絲業に關する經營方法、參考品、數量適宜　**出品期日**　出品目錄は大正六年九月末日迄に本會事務所（栃木縣廳內）出品物は十月一日より同二十日迄に小山町縣立原蠶種製造所宛送付すべし　**褒賞授與式**　大正六年十一月四日

石川支會第三回品評會

會場　石川縣江沼郡大聖寺町　**會期**　自大正六年十月十五日至同十月十九日　**出品數量**　蠶種普通蠶種及特別蠶種各一枚但し出殼繭二十顆以上（一代雜種に在りては兩親の出殼繭各十顆以上）付すること、繭五合以上、生絲玉絲各二捻、眞綿十匁以上）桑苗十本以上、蠶具一個又は一組、參考品（標本類及蠶絲業に關する考案）　**出品期日**　出品目錄を添へ九月三十日迄に江沼郡役所內の當品評會事務所に送付すべし　**褒賞授與式**　大正六年十月十八日

宮城支會第六回品評會

會場　宮城縣刈田郡白石町第一小學校內　**會期**　自大正六年十月二十五日至同年十月二十九日五日間　**出品數量**　蠶種一名稱に付特別蠶種二枚（出殼繭五十粒添付）[illegible]（二十匁以上）[illegible]蠶絲業に關する[illegible]　**出品期日**　[illegible]九月二十日より同[illegible]會事務所[illegible]　**褒賞授與式**　大正六年十月二十七日

第一回九州各支會聯合品評會

會場 熊本市

會期 自大正六年十月二十八日　至同年十一月三日

出品數量 蠶種（特別蠶種二枚以上及其蠶種を生産せる乾繭五十顆以上を添付すると）繭二百五十顆以上、生絲一括と五捻以上（一捻十八匁以上）桑苗二十本以上（蠶具蠶泊及蠶莚類五枚以上、蠶網掃立紙及蠶卵臺紙十枚以上其他一個又は一組以上、參考品數量適宜數量未滿のものは審査に附せず

出品期日 出品目錄九月末日迄に本會事務所に提出すべし（熊本縣廳內）

蠶種（十月二十日限り）**繭**（春九月三十日限　秋十月十日限）**蠶具**（九月三十日限り）**參考品**（九月三十日）

生絲（九月十日限り）**桑苗**（十月二十日限り）

褒賞授與式 大正六年十一月三日

賞品
特別優等賞　貴重品　優等賞　貴重品
壹等賞金二十五圓　二等賞金　拾圓
參等賞金　貳圓　四等賞　褒狀

基礎原種純清國系　大正七年度用

◎黃繭二化性 黃繭二化性たる事を責任保證貳百枚限販賣一枚金一圓

右は往年淸國より輸入せるものなるも其當時翫弄物として飼育せるものに過ぎざりしが遂に今日の黃繭時代となりしを以て漸く蠶業界の視線を引くに至れり今や此種の歡迎は高度に達せり二化性の交配用として此種に及ぶものなからん

◎晩秋蠶種 生種及風穴性生種は在來種及一代交配黃繭及白繭種あり

◎生種の製造期八月十日より廿五日まで順次製造

◎代價在來種框一枚六十五錢支那種黃繭一圓三十五錢白繭一圓十五錢多數は割引

◎風穴種申込次第臨時出穴注文に應ず

宮城縣伊具郡館矢間村
阿武隈川沿岸最大諸桂の皷吹者
大日本蠶絲會特別會員　弘種館主　本多三學

秋蠶失敗の原因に就て

石川縣原蠶種製造所長　鹽原龜次郎

地方的に秋蠶失敗の原因を斷定すること能はざるも我地方に於ける秋蠶は年代至つて淺く今より拾數年前の頃迄は一般に秋蠶の性狀を知悉せずして殆んど春蠶の性狀と同一に思惟し從つて春蠶の育法を標準とせしが如き狀態にありしを以て當時に於ける秋蠶失敗の原因は蠶種の不良より飼育全般に亘り殆と捕促すること能はざりしか其後漸次秋蠶の性狀周知せられ年を追ふて性狀に合せる育法普及せられしを以て最近に於ける失敗の原因は稀に過渡時代に於けるが如く多岐に亘るものなしとせざるも飼育中蠶兒を放棄するが如き慘憺たる大失敗を招くものは失敗の狀態より鑑察するに多くは其源次の如く蠶兒掃立前にあるを思はざるを得ず

一、秋原蠶の虚弱より。

改良法、秋原蠶飼育の適地を選定し其他に於て飼育し且つ專用桑園を設けて滋養充實せるゝものを以て飼育すること。

一蛾育法により病毒其他の性狀を淘汰し不良蛾區を製種せざること。

二、病毒檢査の不確實より。

改良法、一蛾育法を勵行し不良蛾區を淘汰すると同時に交尾産卵後一週間以上放蛾せる儘に置きたる後乾燥檢鏡すべきこと。

三、蠶種の長抑制より。

生種黑種を問はず長期間の抑制したるものは一般に不良なれば其期間を短からしむること。

四、蠶種運搬中の障害より。

夏期高溫の際長距離間運搬するは蠶卵の生理を害すること多し故に可成近鄰の蠶種製造者より購入すべきこと。

五、純血一化性より製出せる交雜より。

二化性と一化性との交雜せるものは二化性同士の交雜種より其性狀虚弱なり故に交雜種飼育の場合は可成二化性同士のものをとること。

米伊間生絲賣買協定に關する協議

在紐育矢田總領事報告

當業者の情報によれば伊太利政府は自國本年度生絲産額の全部を米國に賣渡すに關し、或る協定を作らんと欲し、米國政府と協議進行中にて、之れが爲め米國政府は此程來頻りに當國織物業者を華盛頓に會集して相談せるも、伊國側申し出での價格は一封度八弗にて昨今の相場に比し約一弗五十仙の高値なるを以て當業者は餘り氣乘りせず協定成立の見込目下の處頗る乏し云々と。

右伊國側の條件及當業者會議の詳細は判明せざるも、最近伊太利が財政其他の窮乏甚だしく、先般米國より一億弗の融通を得たる外尙石炭及び食糧品の供給を米國に仰ぐ事は焦眉の急にして目下當國に滯在中なる伊國特派大使の一行が到る處本國石炭缺乏の窮狀を米國公衆に訴へ居るが如き實狀に鑑み、右賣買資金の調節を計る爲め伊國政府が右の如き計劃に出たる事は極めて有り得べき事にして若し伊國側に於て値段の讓歩出來れば右協定の成立も不可能にあらずと思はる。

本年三月ミランに於て開かれたる伊國絹業協會（Associasione Serico Italiana）の會議報告に依れば昨年春期伊國養蠶家はミランに於ける生絲堆積の狀況に顧み、其の養蠶額を減ぜんとするの傾向ありしが絹業協會は政府と協力して其の産額の增加を奬勵し、其の結果、昨年度の伊國生絲生産額は前年に比し一割五分の增加を示したるも、伊國生絲の米國に對する輸出は船腹の不足海上保險の高率其の他の理由に依り、日本及支那生絲に壓倒され、多大の減額を示したり。伊太利の生絲産額は千九百十四年八百九十九萬四千八百九十九封度、千九百十五年六、三四四、九〇三封度、千九百十六年七、九六三、〇九四封度（本年五月里昂生絲商組合[illegible]）にして其の内米國に輸出せられし額は米國税關統計によれば千九百十四年一、八八〇、五九三封度、千九百十五年三、一九六、七〇五封度、千九百十六年一、五三四、九九〇封度に過ぎず。

新潟縣柏崎に開設せる秋蠶講習會講師と
新潟支會幹部及委員部員諸氏

自國内に於ける生絲の需要を差引くも伊太利は尙頗る多額を米國に輸出する餘裕あり。而して米國は片爲替の不利を防ぐ爲め、伊國品の購入を利とする事情あり、又伊國は物資購入資金に充當する爲め米國市場に輸出品を向くる必要あり。旁々伊國政府が已に其の穀物市場をコントロールして米國小麥の伊太利市場に於ける輸入額及び相場を政府の力によりて決定し居る如く、生絲の米國市場に於ける相場及び供給額に對しても亦自國政府の手にて決定し、其の生産額の大部分を當國市場に向けん事に努力するある可きは想像し得ざるにあらず。而して斯る場合其の本邦生絲に及ぼす影響は尠からざる可し。

尤も米國の生絲及絹物市場狀況に關して屢々報告せる如く近來益々盛況を續けて當分何等弱氣を生ず可き兆候を發見せず。戰前一封度三弗數十仙なりし本邦生絲は既に六弗臺を突破して、關西飛切品の如きは本日の相場六弗六十仙を稱へ、尙下向きの模樣見へず。昨年度本邦生絲の米國輸入額は一億一千二百〇一萬一千餘弗と云ふ未曾有の額に上り、對米貿易輸出品の大宗として、本邦政府に於ても注意を拂はれ居る事と推察する處なり。

近來當地に於ける當業者は太平洋船腹不足の爲め不利と不便を受くる事多大にして、此の點に關し曩に製茶輸出に對する船腹救濟に關して執られし措置と同樣早晚多少の助力を與ふる必要起る可きは必至の勢と觀察す。

陸軍准尉新設

陸軍にては豫報の如く少尉の下、特務曹長の上に各兵科准尉なる官名を設け一日附軍令を以て「陸軍士官學校准尉候補者教育條例」を發布せり其要領を擧ぐれば各兵科准尉の候補生として之を士官學校に入學せしめ中隊附少尉の職務を執るに必要なる教育を行ふべく其綱領は教育總監の定むる所に由り修學期を毎年六月中旬より十月上旬の四箇月と定め其成績により教育總監の認可を受けたる後修業證書を附與して其所屬部隊に歸屬を命ず但し本年に限り右學生の修學期は特に八月上旬より十月下旬に至る約三箇月とせり但し准尉の服役停年は滿四十二歳なり。

南米ボリヴィアの馬鈴薯

戰爭の影響で食料不足する歐洲諸國に於ては之を補充する目的にて食料節約、開墾地の增殖、科學的收穫增加法、人造食料の製造等あらん限りの方法が講ぜられて居るが、近頃此等の諸國に於ては南米ボリヴィア産の馬鈴薯を輸入して之を繁殖せしむ可しと云ふ說があるボリヴィアに於ける某米國領事の報告に據れば、佛蘭西及端典には既に此種馬鈴薯が輸入栽培された由來ボリヴィア産馬鈴薯はボリヴィアのアンデス山中に多く栽培され、豐富の收穫あるが、此地方は他の野菜及び穀類の栽培には全然適せざる所で右の馬鈴薯は不毛の地でも能く繁殖するとを證明する。昔よりボリヴィアでは此馬鈴薯を寒氣に暴露して氷結せしめたる後曖めて溶解することを度々繰返して內部の水分を取去り小銃彈ほどの球形にして市場に出す此球形の乾燥馬鈴薯はチエニウーと名づけられボリヴィア國民の主要食料の一つである、チエニウーは製造後數ヶ月を經過しても味を變じない二三年經過しても尙ほ差支へなく人の食料になし得る。

第五回全國各地蠶況（百十五號の拔萃）

七月廿五日より本月七日迄に本會に到達せる全國各地通信委員よりの報告を綜合すれば本年度に於ける夏蠶の掃立は勞力並に用桑等の關係上各地共增減區々たるは免れざれ共其の掃立總數は六十四萬七千四百四十枚にして之れを昨年度の六十三萬三千三百八十枚に比すれば二分二厘の增加に當れり之れを地方別に見るに九州に在りては昨年度に比し一割三分弱、四國は二割二分强、山陰、山陽は一割强、近畿地方八分强、東海道四分弱、關東甲信地方は五分九厘、東北は一分九厘の掃立增加を示せるも北陸地方は一割三分の減少を示せり、四國の割合增加せるは主として高知縣に於ける掃立增加のためにて北陸地方の割合減少せるは主として新潟縣に於ける本年度の春蠶遲延の爲め夏蠶掃立激減せるに基くものにして其他にありては極めて僅少の增減に過ぎず、之れが發育經過は氣候不順の爲め稚蠶期中の經過幾分面白からざる地方なきに非ざれ共概して良好にして苦情の聲を聞かざれば相應の結果を得らるべし。

秋蠶に對する當業者の意氣込は絲價の好況に伴ひ一般に旺盛にして各地共掃立增加を示すべく、蠶種の需用盛んなり。殊に一代交配種の要望多く、從って供給之に伴はざる地方少からざれ共當業者は餘儀なく在來種に乘り換へ掃立を行ふを以て大體よりする時は蠶種に甚だしき過不足を生ずるが如き事無かる可きが、之が飼料たる桑葉は春季伐採又は摘採後發育繁茂良好なるものありしも先月中旬來多く旱天打續き爲めに發育は幾分阻止せられたるものあるに加へて蕊止蠅の被害各地に多く、爲めに新梢の伸長を妨げたるものあるを以て幾分收葉量を減殺せる向なきに非ざるも、一般に肥培管理に努めたるを以て適當の降雨を得ば其の伸長繁茂を恢復するや疑ひなく、今より之を豫測するは早計の嫌なきに非ざるも種々の情報を綜合すれば本年秋季の收繭額は幾分增加を示す可きか

（備考）東京、長崎、兵庫、栃木、宮城、山形等報告未着なるを以て假りに前年度の數字を充當せり。

第六回世界蠶況

六月廿一日付を以て佛國里昂蠶絲商組合より八月七日迄本會に到達せる第六回世界蠶況左の如し。

佛蘭西

最近八日間打ち續きたる快晴は蠶兒の上簇に好影響を及ぼし爲めに前回報告に於て杞憂せる失敗も幸に全般に及ぼさゞりき。然れ共概して蠶兒の四眠起の際に襲はれたる炎熱の氣候は至る處に苦情の聲を生ぜり。某々地方の如きは殊に然るを見る、故に本年度の收繭成績は昨年度の如き整一を見る事難かる可し。是を一般より見るに本年度は昨年度の收繭額二百七十九萬七千基より下るとも越ゆる事はあるまじと觀測せらる。繭は養蠶地方大部分に現はれたれ共、之れが買入れは來週ならでは盛ならざる可し。今日までの處繭相場確定せず。

セベンヌに於ては本月十八日の月曜日にアレ市場の開始を見たりしが五法（本邦一貫目當り七圓十錢の割）を唱へたり。實際相場は來る廿日或は廿五日に於て決すべしと豫想せらるドロームに於てはモンテリマル地方の相場五法半（本邦の貫七圓八十一錢に當る）と決定せり。而してロリオル市場にては五法半にて繭を受けたるが右は來る廿三日の相場なり。アルデーシユノオーブナ、ラルヂャンチエール及びジョワイヨーズ地方にては初繭の相場未だ確定せず。ヴアールノヴヰドーヴアンにては並繭五法の相場なり。ピレネ、オリエンタルにては收穫終りを告げたり。繭は一基五法を以て蠶種家の手に引き取られたり。但し同相場は去る四月下旬蠶種交附の際豫約せられたるものなり。

伊太利

トスカーナ、フキリーネ地方六月十八日付の報告に依れば蠶兒は總べて簇中に在れ共上簇に際して襲來せし炎暑は軟化病及び微粒子病に依る失敗を生ぜしめたる事尠からず。氣候乾燥の爲め繭質良好なるが如し新繭少量現はれ始めたり。相場未定のまゝ引取られしも高値なるが如しヴエネチアフリウール、ヴヰチエンザ六月十八日附報告に依れば前回報告に於て吾人の豫告せし如く蠶兒の最終眠期に當りて襲來せし酷暑は意外に夥しき損失を釀せり。之が爲め當地の收穫は三分の一方の減少を見たり相場は七・三〇乃至八・二〇理（本邦の一貫目十圓六十二錢乃至十一圓九十三錢に當る）見當にして昻騰の傾向を示せり。ロムバルヂアミラノ六月十八日附報告に依れば蠶兒は好成績を以て上簇終り目下簇中に在り。然れ共酷暑の爲め幾分の斃蠶を出したるが既に豫想せし如く收繭は一般數量に於て昨年度と大差なきが如し。同地方の收繭は大部分廿三日より廿七日頃までに行はる可し。ピエモンテトリノ六月十九日附報告に依れば天候引續き快晴にして驟雨屢々來り、幸に平原地方の苦熱も爲めに清涼なるを得たり。數日前軟化病發生の報告あり幾分氣遣はれたるも這は唯雨期影響を被りたる最も早き蠶兒の一部に過ぎざるが如し目下一般の報道は不安の點なし蠶兒は大部分簇中に在れ共遲き物は尚四眠中にして經過順當なり。ブリケラヂヲ高部ピエモンテ六月十六日附報告に依れば蠶兒は上簇に達せり暴風雨と暑氣と交々來り爲めに幾分の損失を來せり。昨年度は頗る優良なる收繭を見たるも本年に在りては硬化病繭及び死籠り繭を出す可し。茲一週間を以て總てが決せらるべく、良好なる天候は尚損失を尠からしむるならんか。

繭相場

カラブリア（ヴイラジョヴアン＝地方）取引は七・六〇乃至七・八〇理を以て開始せられ一氣に八理に昻る。而して後者の相場を甚だしく超ゆるに至るならんと豫想せらる。

六月十七、十八兩日の市場に於ける相場左の如し。

トスカーナ＝ボルゴ、ア、ブッヂアーノは八・五〇乃至九理。

マルケ及オムブリア＝オシモ六・五〇乃至七・七三理、平均七・五二理。

エミーリア＝フアエンツア六・一五乃至八・五〇理、平均七・七〇理。

フオルリ五・乃至八・三〇理平均七八三理。

ルゴ六・〇五乃至八・二五理。平均六・九三理。モデナ七・四〇乃至八理。

メルドラ六乃至八・四〇理。

ヴエネチヤ及フリウール＝コローニアヴエネタ支那交配種七・四〇乃至八・三〇理。黃繭七・七〇乃至八・二〇理。ロニゴ支那交配種七・九〇乃至八・七〇理。ヴエローネ六・六〇乃至八理。平均七・四三理。ヴヰッエンツア七・三〇乃至八・二〇理。ケゼーナ最高九・二〇理平均八五八理。

ピエモンテ＝アレツサンドリア五乃至七・六〇理。

ロンバルヂア＝マントーヴア五乃至八理。平均七〇カ理、ヴオゼラ六・五〇乃至九理平均七・七一理。ストラ、デルラ、六・七〇乃至八・四〇理。

ミラノ六月十九日附の電報に依れば繭價昻騰を告ぐ。即ちチエゼナにては九・二〇理に達し、ヴオゼラにては九・二五理なり。而してメルドラは八・〇五理と相場決定せり。

ミラノ同月廿日付電報に依れば同地近傍の二三にては八・五〇理と相場定まれる由次で廿一日同地よりの來電に依れば繭價依然として昻騰。ヴオゼラは九・七五理に達せり。ロンバルヂアノ二三の地方にては收穫昨年より減ぜりと。

極東

廣東六月十九日來電に依れば洪水の爲め第三次收繭は減少せり、製絲工場の大部分は作業中止の已を得ざるに至れり。

懸賞募集　一すしたこと

規定

一、蠶絲業に關するもの
一、二十二字詰十五行以內
一、宛名は蠶絲の光係のこと
一、以上に反するものは沒書とす
一、賞、甲蠶絲の光一ケ年分、乙同半ケ年分、

甲賞　缺

乙賞

簡易掃立法

岐阜縣　森本花雲
同案者　盛岡市　吉村善助

歐洲系の蠶は爪が強くて皮が弱と云ますが其他の蠶にしても打落したり羽箒で擴めたりするのは蟻蠶を痛め又呼出し桑を用ふるのも大分食桑する者と漸く取り付たる丈の者とありて多少不整ならしむる因となると思ふ此の見地より私は數年來次の樣な掃立方を致して居ますそれは極簡單で先づ包紙を秤量記載し置き早朝未明の頃種が中央に行く樣四方より折りて一坪なり一坪半なり適宜の廣さに包み置き掃立一時間前に萎縮病の桑又は本葉の如き廢桑を細かに刻みて包紙の上より重ならぬ位の程度に一樣に散布し置けば蠶は桑の香を慕ひて紙包の廣さに全面而も極均一に包紙に移るを以て包みを擴ゲ桑葉を拾ひ去りて蟻量を秤り直に第一回の給桑を爲す斯くすれば打落したり擴めたりする手數なく而も少しも蟻を痛むる恐れなし包紙は成る可く薄き和紙を可とす。

秀逸

蠶に蟻のついた時は

靜岡縣　鈴木伊平

夏秋蠶の時期になるとよく蠶に蟻がついて大に困る事は度々です此時の處置法としては種々ありませうが中にも私の實驗した最良法は蠶箔を廣い場所へ抜き出して蠶座へ火鉢の灰をフリ撒くと忽ち蟻は之を嫌ふて他へにげてしまいます而して後蠶は總て速に除沙して清潔な座に移します、又蠶架の足には灰で包んで置きますと奇妙に蟻を除ける事が出來ます而して其灰は乾いたものでなければ駄目です。

失敗の原因は眠除後の給桑

岡山縣　蠶生
同案者　靜岡縣　大石男

進歩に伴へる交配せし優良種は經過迅速なるが故飽食の旨は飼育者自覺すれ共眠除後過半備眠すれば桑葉は經濟並に蠶沙の堆積を恐れ給桑量漸次減少するを見受居るが之れが爲に就眠不齊し起縮を生じ或は虚弱の蠶兒を育て尚營繭前に病蠶を生ず然れば交配種は何れの齡期を問ず眠除後一回は盛食期と同等の給桑すれば九分位は就眠し少し時間を延引し少量に給桑すれば就眠齊一となり尚起蠶活潑也眠除後多量に給すれば概ね一回にて齊一に就眠す特に注意注目あるは一齡中也尚飽食を勉めたる蠶兒は少々の害は之に認めず故に強健の蠶兒を作るべし。

秋蠶飼育に就て

岐阜縣　西尾一太郎

蠶室は午前八時より南方の戸を閉ぢ北方より出入をなす午後七時頃より之を開放し翌朝日出の時北方の雨戸を閉づ殊に炎熱高き時に於ては徒に蠶室を開放するが如きは益々蠶兒をして不良に墜らしむる物なり何れの時如何なる蠶兒を問はず室內を八十度以上に昇する事多き程蠶兒には不適當にして其結果が知るべきのみ之高溫の日早朝より密閉する所以なり然れども夕方より夜に至れば外溫漸次下降して適溫に入るを以て速かに戸障子を開放して室內溫度を下降せしむ之高溫に際し必ず採用す可き手段にして殊に夜間開放し置く所以なり若し之に反し雨天にして冷氣なるか或は適溫以下に降りし時は適當に火力を使用し氣抜を充分開放す可し斯の如くなす時は必らず蠶兒には適溫にして八十度以上に昻る事なし諸兄大に實見せられたし。

室內に水撒布は禁物

熊本縣　宇野源藏

一般に普通人のなすを見るに秋蠶期非常なる高溫過乾の時は蠶室內に多量の水を流したり散布したりして室內の冷涼を計らんとする樣なり、然る時は日中は最も宜しかるべきも夜中に至り忽ちにして多濕となり、室內一般に濕氣充滿して、蠶沙の冷濕を來たして蠶兒の生理上害甚だしければ今後室內への水散布は止めらるべきなり。

秋蠶稚蠶期軟葉簡單貯桑法

靜岡縣　田代卓

云ふ迄も無く秋蠶期は高溫にして飼育困難又桑葉の枯凋速かにして特に稚蠶期の軟葉枯凋しやすく之を簡單に且又安全に貯桑し得るには桑を朝又は夕に摘み之を高さ二尺乃至三尺巾二尺位の丸籠に二貫目位入れ中央に穴を開け之を井戸の中に入れ水面より五六寸隔てたる所に釣し置きその井戸の上に蠶蓆等を掛け置く時は井戸より水分發散して軟葉は枯凋せずして生き〳〵して貯桑室の代用に適す。

日除に就て

大分縣　愛蠶生

夏秋蠶期は每日の如く炎熱燒くが如き氣候でありますから東南西の直接日光が蠶室に當る所には皆日除をせねばなりませぬが、其の日除を見ますに小麥稈か莚等で多くの人はしてありますがそれよりも蠶室より三尺乃至一間位の所に南瓜を植ゑて屋根上にハヒ上ぐる樣に棚を作りて繁茂さすれば蠶室內は淸潔で如何なる炎日でも二三度低溫でありますから育蠶上非常に良い日除法です。

萎縮後補植の速成法

熊本縣　田上利一

桑樹萎縮の善後策として、萎縮掘取の跡に翌春補植を行ひ之を其翌春早切として繁茂せしむるを常とするが故に一度萎縮に冒されたるものは三年目の秋に至らざれば其用を成さゞるものとす然れ共之を左の如くする時は二年目にして十分の繁茂を見る事を得べし。

先づ春期に於て當年の萎縮病の發生を豫定し上苗を用意し之を畠の隅に假植にして梅雨或は夏雨の時に至らんとする頃を見計らひ其苗を叮嚀に掘取り廢桑と植替を行ふべし斯くして之を翌春の早切にして繁茂せしむる時は萎縮より第二年目にして秋蠶飼育の用桑に用ふる事を得て實に一ケ年の速成を遂ぐるものとす。

絲蠶網の保存力を増すには

山口縣　野川傳

蠶網の使用は今更でもないが勞力經濟上非常な使用力を増して來ました。然し年々歳々同じ蠶網を三回も四回も使用して其の度毎に、消毒、又は洗滌しますものですから勢ひ保存力が減削されます、そこで消毒又は洗滌が濟んだなら之れを柿澁の內に浸しまして之れを一々所要の大きさの板又は框の四隅に釘を打ち夫れに、丁度眞綿を造る時の樣にかけ擴げる、そして乾かしてから使用するのです、かうすると使用力を増すばかりでなく、一面には病毒の豫防にもなりはしまひかと思はれます。

簡易なる蠁蛆驅除法

岐阜縣　河尻靜

我蠶業界殊に蠶種製造上、一大强敵たる蠁蛆の驅除方法も色々あつて常に實行されつゝありますが其の內尤も必要なる床下の驅除法は作業至難なるため惡いと知りつゝ怠り易いものであります、私も之が爲め非常に困難して居りましたが、フトした事から非常に簡易なる一驅除法を考案しました故、貴重なる誌上を汚して諸君に御知らせする次第であります、先づ蠶室の床下を利用して、鳥屋を作り適宜鷄を飼ふのでありますが鷄は非常に此の蛆を好み土中に蟄伏して居る蛆を悉く拾ひ食ひます卽ち之で驅除が出來たので養鷄事業と一擧兩得であります、假ひ、鳥屋構造にしなくとも、一般蠶業家殊に製種家並に生繭取扱者は、必ず鷄を飼ひ自由に床下へ出入の便を與へたならば獨り蠁蛆の驅除は出來る事と思ひます。

蠶室蠶具改良講

新潟縣　蠶之兒

吾が村の養蠶組合にては、玆に小資本の普通養蠶家十二戶を以て蠶具改良講を開きたり、其方法は半數六戶は本年度內殘六戶は明年度に改良なすか修理するものとす、開講出金額は五圓として三圓を養蠶に二圓を夏秋蠶上簇後各生繭販賣の上蠶具問屋に支拂ふものとす購入せる主なる蠶具は、蠶箔蠶蓆蠶網其他事要必用品等、最とも從來適恰せる蠶具を所持せるものは、此の金子を以て桑園の改良蠶室の修理に充つるものとす。

斯くして四回（二年間）實行せば、組合內蠶室蠶具は、理想的に整理改良なすことを得小資本の養蠶家として、僅かの期限內に改良され得る故一寸便益である。（完）

□編者より

本月は春夏蠶後の經驗から得た有益な問題が澤山集るだらうと期待して居りましたが、餘り良い物は集らなかつた。來月からは奮つて失敗談なり、飼育法なり、經營法なりに就て投書せられたい。夫れから文句の句ぎりへ點や丸を附けて頂きたい。

問答欄

答へず三則

限りある紙面を最も有効に利用する爲めに□最近に答へた問題□蠶絲業に關係少なき問題□前號の答で猶ほ解らぬ點の再質問や紙上で答へる價値なき問題等には答へず。□然し以上の質問でも往復葉書で本會內蠶史郎宛に御尋になれば喜んで御答へします

問者　愛蠶生、蠶堂、西岡生、外數氏

問　心止蠅の經過習性被害狀態及び其の驅除法を問ふ。猶ほ心止蠅は濕地に多いと云ふが眞なるか？

答　本月は心止蠅に關する質問が此の外數通あつたが、大體似た物ですから一括して御答へ致します。驅除の方法に就ては先々月頃から本欄で御答へしましたから之は省きます。桑心止蠅は六七月頃より出て枝梢の端の未だ開かぬ前の芽に數粒の卵を產みつけます。卵が孵化すると先づ伸長開綻せんとする芽の中に這入るか芽を包む物の中に這入つて、そこから食をとつて生長します。多少嚙むから其の部は黑又は黃褐色になります。夫れで幼虫の芽を害する期間は大概一週間前後で、普通芽が傾いて一部が黑褐色になる頃になれば幼虫は去つて土の中にもぐつて仕舞ふのです。從て芽の中で其の幼虫を發見するには（普通無被害芽の樣に見へて）僅に芽の傾きかけた時探さねばなりません。猶ほ幼虫の充分老熟した物は體を屈して能く跳ねる性質がありますから、被害芽を摘み取らうとする時には早くも跳ね降りて土中に入り營繭する事もあります。土中に這入つた幼虫は地下に四五分乃至一寸位の淺い處に繭を結びます、そして直ちに蛹になります。繭は土粒と見違へますから搜索困難であるが容易に潰れ易い性質の物です。一年間の經過は大體四回乃至五回の發生をなして芽を害します。卽ち六月末から九月の末まで百餘日の間であつて卵期二三日、幼虫期一週間內外、蛹期十日內外で一代凡そ三週間位かゝるのです。九月下旬最後の發生の物は其のまゝ土中にあつて普通の通り營繭化蛹して越冬致します。

被害狀態は五六月伐採した桑から葉芽が生じて一二尺に伸長した時始めて幼虫が食害を始める物であつて、其の枝は全く伸長を停止するに至り、今度は側芽が代はつて伸長し始めます。然し之れも四五寸又は一尺も伸びる頃には幼虫の食害を受けて仕舞ます。次には其の枝の側芽が伸長するが之れも前同樣な有樣になります。從つて桑の生理を害し葉も小形となり養分の蓄積にも差間へて翌春の收葉にも惡影響を及ぼします。實驗に依れば市平、青木市平、十文字、小牧、四ツ目及九紋龍など比較的被害が多い樣です。最後に問者の云はれる樣に心止蠅は陰濕の地に多く發生する傾向があります。卽ち密植の桑園地表に柴又枯草等を多量に敷いた處及び雜草繁茂した處等に多い樣ですから其の積りで土地の乾燥を圖らねばなりません。

問　秋夏摘桑に當り銀杏葉摘みにする時葉の生理に及ぼす影響及び其の得失如何？

和歌山　愛蠶生

答　葉の生理上他の摘み方に比して利害の差なしと思ふ、作業上銀杏葉摘は他より餘分の勞力を要す。更らに葉を傷めます。從つて特に貯桑に注意せねばならぬ。だからこの摘み方は餘り感心されません。要するに葉柄の基部の幼芽を害せぬ樣にすればよいのですから葉柄より幾分殘して摘めばよい。

問　四五齡三四日目頃より起縮病發生し難儀せり。原因及び豫防の法を問ふ。

伊豆　蠶堂

答　原因は起縮病菌と云ふ細菌の寄生に依るのです。誘因は桑葉及び卵殼と共に本菌を食下した時に發生する物で蠶兒强健なものは喰べても發病せぬ事もあります。病菌はどこから運ばれるかは未だ不明ですが第一の豫防法としては蠶兒の生理を害せぬ樣に强健に飼育する樣にせねばなりません。この事は唯に本病の豫防法なる而已ならずあらゆる病氣の豫防法であります。豫防上の注意としては(1)過乾、桑付け遲延、又は用桑不良の爲め桑不足を感ぜしめない事(2)過度の高溫に合はせない事(3)消毒を嚴重に行ふ事等です。

問　黃石丸は在來種に比して飼育が六ケ數ですか？又明春も黃石丸を飼ても賣れぬ氣遣はありませんか？

愛媛縣　西岡生

答　給桑に注意さへすれば別に六ケ數事はありません、又明春の事は神ならぬ身には殆ど豫測

がつきませんが覆れぬ様のことはない。

問　岩手縣　多田新三郎
眠除分箔の際蠶座を平均にならさず數十頭宛ぼつ〵と僅の間隔を置きて座を作る者あり。之ば甚だしく手數を要し時には作業半ばにして大半就眠する事あり。之れを動かすは惡しと思ふが如何？

答　蠶兒は就眠の際は空氣の流通の良い清潔な高所を好む性質があるから決して惡い事ではない。然し幾分の利益があるからとて之に捉へられて作業を手遲れにする樣なら却つてやらない方が宜しい。就眠中の物を動かす事は實驗上害はありません。

問　降雨續の際濡れ桑を給與しても害なき良法なきか。

答　大害あり。良法なし。

問　接木用として脊桑の實生は惡いと云ふ者あり。又臺木は穂木より充實した物でなくてはならぬとの事なるも眞なりや？

答　脊桑のどこが惡いか、惡い點を知りません。臺木の充實したのを望むのは勿論ですが穂木よりも充實して居なくてはならぬ理由は少しもありません。要するに臺木は土中の養分吸收機關に過ぎない物です。

問　靜岡　白濱漁人
一代交配種の缺點を問ふ。

答　強いて擧げれば玉繭を多く造る事です。之れは蠶兒の發育齊一擧動活潑なるに依り自然に起こる現象です。夫れもた蔟法に注意すれば免れる事が出來ます。

問　愛媛縣　長濱善吉
支歐交配種は如何なる種類を掛け合はせたる物が夏秋蠶用として優良なりや？

答　今の處二化性紹興、二化性諸桂等を雌としてドローム、アスコリピセノ、セクザート、グランサックなどの雄を掛け合はせた物が宜しい將來は二化性新無錫へ歐洲種の優良種を掛け合はせた物が宜しからうと云ふ人もあります。

問　岡山縣　濱田福太郎
交配種の絲縷太きは溫度の高低に依りて然るか

答　溫度の關係ではありません。虫の性質です。

問　茨城縣　初　蠶生
風穴種と冷藏種とは性質に差ありや？又八月下旬出庫物の成績如何？

答　風穴種と冷藏種とは同じ物です。八月末でも宜しい。

問　冷藏種掃立當時蟻の色黑きと茶色とあり成績如何。

答　蟻の色は成る可く齊一が宜しいが、不齊でも大變惡くはない。

問　栃木縣　佐藤辰二
本縣芳賀郡東北部に適する春秋蠶用優良桑を問ふ

答　斯う云ふ地方的の御質問は御地の農事試驗場又は取締所へ返信料附でなさるが宜しい。私が答へるより確かです。只他の地方の優良種必ずしも其の地に移して優良なりとは云へぬと御承知ありたい。

問　栃木縣　春花生
砂質壤土の地には如何なる桑を植るが宜しいか。

答　何種の桑にも適當します。

問　夏秋蠶期の桑の肥料としては何が宜しいか

答　堆肥の樣なきゝめの遲い物を避けて速効性の物が宜しい。

問　秋蠶百蛾飼育に用する給桑全量を問ふ。

答　百五六貫から二百二三十貫です。

問　茨城縣　勝　鶯
蠶兒に飽食せしむる最良の方法を問ふ。

答　養蠶法の奥義如何と云ふ事はこの短かい質問に依てつくされて居る。痛快な質問である。答へも簡單である。㊀換氣良好なるべき事㊁溫度適當なるべき事㊂溫度適當なるべき事㊃營養狀態可良なるべき事縷々千萬言を費して講ずる養蠶法も要するに右の四項を引き延した物に過ぎない。

問　蠶架の間隔は六七寸の物と八九寸の物と何れが蠶兒の生理に宜しきか。割合を問ふ。

答　割合は存じません。間隔は勿論八九寸の方が宜しい。

大正六年八月十三日印刷
大正六年八月十五日發行

禁轉載

定價　一部七錢（一ヶ年分會員六十錢　會員外七十錢）

編輯兼發行人　東京市牛込區下戸塚町三十二番地　重富三男三
印刷人　東京市神田區美土代町二丁目一番地　島連太郎
印刷所　東京市神田區美土代町二丁目一番地　三秀舍

發行所　東京市神田區錦町三丁目十八番地　大日本蠶絲會
電話本局一四七三番
振替口座東京一二〇六番

◁完全無毒の理想的優良晩秋蠶種の提供▷

◎キット飼育して成功すること保險◎

●春蠶種各種基礎原種一代交配種（委細紹介を乞ふ）

奈良縣特蠶種　晩秋生種の製造案内

●製造の方針　完全無毒の理想的一代交配種を本館獨特の原蠶種に依り製造致し九月中旬以後の最晩秋用蠶種としては强健必當の改良日日一代交配種を製造仕り飽迄も優良蠶種を製造して養蠶家各位の福利の増進を計る可き方針に御座候

（種類）
掛合　大草　諸桂
掛合　青熟　諸桂
掛合　大白龍　紹興
掛合　大白龍　諸桂
掛合　青熟　大黑蠶

飼育容易繭質優良
壹升百六十粒乃至百八十粒
收繭五貫匁乃至六貫匁
製造期九月廿日迄毎日産卵致す可候

●飛白
●長白龍
●大白龍

◎定價特別蠶種壹枚　一代交配　壹圓參拾錢　在來種　八拾錢
◎注文は發生期日拾日前に被下度多數共同購入の向は出來得る限り早く御注文被下候得ば精々御便宜相計り可申又掛合（交配）等も御指定通り製造仕り申べく候間多大なる御利益に御座候也　敬具

●風穴種九月一日製造開始　種繭見本製造案内提供

奈良縣山邊郡二階堂村大字杉本一六
原名古屋製絲所奬勵蠶種製造所
大和蠶友館　木口鶴松養蠶場
（發電略號（キ〇）振替口座三四四七八）

○生種の御注文は必ず前金に願上候　定價　白繭一代壹圓貳拾錢　黄繭一代壹圓五拾錢に改正

繭價百廿五圓 開國以來の**レコードを破る**

養蠶家は**晩秋蠶の飼育**に全力を傾注すべし

一代雜種は完全にして＝原種は純血なるを要す

本年用生種

○八月末より十月中旬掃

黄繭支歐一代　紹興×（ビレネー　アスコリピッエノ　ゼクザート）

同　日歐一代（大白龍　日本錦）×同

白繭日支一代（大白龍　大草　日本錦）×（特大清廿　新元　紹興）

本年用冷藏種

日支一代（掛合青熟　掛合白露）

目下餘裕僅少に付至急御注文を乞ふ

明年度用冷藏種は黄繭一代白繭一代八月下旬より製造豫約御申込を乞ふ

本社　京都府加佐郡舞鶴町

一信製種株式會社

出張所　京都府何鹿郡綾部町

振替口座大阪五三七三番

電話舞鶴一五七番

春蠶種

黄繭支歐一代（黄々交配　黄白交配）

同　歐々一代

同　一號名古屋黄石

日支一代

白繭　日支歐一代

基礎原種

一化性

黄繭白繭共

日支歐各種

二化性

日支白繭各種

春蠶種の餘裕頗る僅少種類により豫約濟に付乞御照會

金城蠶種同業組合員

愛知縣丹羽郡古知野町兩高屋

蠶種製造業兼蠶種問屋

蠶桑舘蠶種部

舘主　古田丹市

電略（タン）

振替口座大阪三〇八一四番

春蠶種

○純系基礎原種內外

黄白繭

○歐亞日支一代交配固定交雜種

風穴種

○純系基礎原種內外

○歐亞日支固定交配交雜種

○在來生種（歐亞日支）一代交配各種

八月十五日より座卵五千枚限り割引有り

古田式貯桑法教授並に見本繭御入用の御方は一口に付郵便券三錢を要す

但し養蠶組合、農會、諸官衙郵券不要

日本アルプス山高原の特色

晩秋蠶種

▲豐作請合

◎在來種　日本錦

◎交配種　日支交配固定種一名日本アルプス霜乃下

○產付　八月十五日頃より順次九月十日頃迄

○代金　特別蠶種一枚七十錢　普通蠶種一枚一圓五十錢

一代交配種は御注文前御照會を乞ふ

長野縣南安曇郡有明村字新屋

有蠶館　**矢口郁重**

電略（ヤク）

振替東京一二九四一番

蠶種界空前之大發明品

新案特許第三九五〇〇號

桔川式人工孵化器製作使用權分與

本器に依れば何人にても容易に孵化し得られ製造者必要器具なり

新案特許第四三一三三號

桔川式雌雄分離器製作使用權分與

本器は製作費廉にして堅牢雌雄蛾自然に分離し得て大製種家に最も適用せらる

人工孵化蠶種

純粹種　一代交配種　固定交配種　種々有り

本種は飼育易く成繭豐富なり冷藏種又は生種の遠く及ばざるは實驗者の認むる處なり發生は八月二十日より九月末迄隨時注文に應ず

代價枠製金七拾錢　平製　金貳圓也　但し交配は割增の事

以上何れも詳細は御申込み次第明細書を送呈す

靜岡縣濱名郡北庄內村白洲

遠州舞坂冷氷庫經營者

素洲館　桔川熊重

堀江郵便電信局區內電略（ソ）
振替貯金東京口座貳貳四八壹番

甲州特産霜の下蠶種

本年最終の蠶種を飼育し豐作を得んとすれば本社の蠶種を御需めあられよ

本社は天與の晚秋蠶種製造地に在り社員は一致協力健良蠶種の製造に勉む

製造種類

種ケ島◎大白龍◎日本錦◎玉なし◎新屋

産卵　八月十日以降九月五日迄て引續産附
代價　特別蠶種五十錢　平製百蛾附一圓五十錢
割引　十枚以上割引多數は照會を乞ふ
郵便引換は半金以上拂込にあらざれば發送せざること
電報及爲替は日川局に取扱ふ

春蠶種
在來稚　青熟中巢、小石丸、白玉、赤熟、角
交配固定種　又黄白、黄石丸、金世界、支那又
一代雑種　日支白繭、支歐黄繭各種

風穴種
純系種　歐州、支那、各種
在來種　青熟中巢、玉なし、種ケ島、日本錦
一代雑種　日支黄繭、日日、白繭、日支白繭　八月十日より豫約製造

生種
原種　二化二化青熟中巢

山梨縣東山梨郡日川村

改進社事務所

振替　東京二二四九五
電略　カイ

養蠶家は

池田榮太郎先生著

交配在來兩用 **晚秋蠶飼育日々行事** 再版
大判、日繰式柱掛用　紙數四十二葉　每葉寫眞精圖挿入　定價金貳拾貳錢　送料金四錢

交配在來兩用 **秋蠶飼育日々行事** 五版
大判、日繰式柱掛用　紙數三十五葉　每葉寫眞精圖挿入　定價金貳拾錢　送料金四錢

交配種應用 **春蠶飼育日々行事** 三版
大判、日繰式柱掛用　紙數五十五葉　木版、寫眞精圖挿入　定價金貳拾五錢　送料金四錢

右三種共、著者が該博なる知識と多年の實地研究の結果とを以て、養蠶家のために實地指導の目的で說述せられたもので、これによつて養蠶家の益することの甚大なる事は縣廳や郡役所の共同購入や澤山の禮状が立派に證據立てゝゐる。本書は理論と實際とを巧に調和したもので、養蠶家必須の良書であるといふに憚らぬのである。

蠶業家年中行事 八月下旬出來
菊版二倍大　紙數十四枚　每葉寫眞精圖挿入　定價金拾錢　送料金二錢

喜色滿面

◎取次販賣御希望の方は御申越あれ特に相談に應ず

廣島縣福山市西町築切　**枝廣活版所**　電話四五三番　振替大阪三六八四番

大好評の養蠶書六種

東京高等蠶絲學校助教授
丹羽四郎君著

實用
桑樹病蟲害驅除法

定價八拾錢
郵税八錢

大日本蠶絲會囑託
吉永信子著

眞綿製法と其加工法

定價三拾錢
郵税四錢

農學士
辻暢太郎君著

蠶體生理學

定價七拾錢
郵税八錢

農學博士
石渡繁胤君述

通俗
外國蠶及掛合種飼育法

定價九拾錢
郵税八錢

石田孫太郎君著

實地應用
比較養蠶論

定價九拾五錢
郵税八錢

三龍社長
田口百三君著

通俗
黄石丸
三龍又
飼育法

定價参拾錢
郵税四錢

發行所 東京市神田區錦町三丁目十八番地 大日本蠶絲會圖書部 振替口座 東京一二〇六番

◉本書を讀んで實地に應用せよ

三版

秋蠶講習全書 全

東京農科大學敎授理學博士 佐々木忠次郎先生
東北農科大學助敎授農學博士 田中義麿先生
東京高等蠶絲學校敎授 土屋泰先生
東京高等蠶絲學校敎授 岩淵平介先生
大日本蠶絲會技師 加藤知正先生
同 重富三男三先生

講述

洋裝美本
紙數五百頁
定價壹圓
郵税八錢

▲目次

秋蠶飼育法 緒論。第一章 總論。（一）我國農家の位置と其責任（二）穀作業と養蠶業（三）氣象要素と農産業との關係。第二章 飼育法概論（一）蠶兒の發育に必要なる要素。第三章 品種。（一）品種選拔の方針（二）夏秋蠶として一化性の行はるゝ所以（三）黑種と生種との利害得失。第四章 蠶種の保護。（一）冷藏蠶種の保護（二）蠶種の保護。第五章 飼育法。（一）飼育時期（二）飼料（三）給桑（四）眠起蠶の保護。第六章 上簇及收繭（一）適熟蠶（二）熟蠶柴取法（三）簇の構造と蠶數（四）上簇後の保護。第七章 蠶絲業の經營＝蠶體生理大要 緒論。第一章 蠶の外景。第二章 蠶の營養。第三章 蠶の呼吸。第三章 蠶の脫皮及成長。第五章 蠶の運動感覺並に神經系。第六章 絹絲の分泌及繭。第七章 蠶の生殖器。第八章 蛹。第九章 蛾。第十章 胚子の發達＝蠶の品種及改良。（一）用語に就て（二）品種統一問題（三）新器類育成の急務（四）優良なる品種の標準（五）品種育成の方法。第一 個體變異の利用。第二 突然變異の利用。第三 雜交法。（六）型の分類（七）遺傳の法則（八）蠶に於ける遺傳現象（九）蠶種及種繭の審査＝蠶體病理大要。第一章 緒言。第二章 蠁蛆病。第三章 微粒子病。第四章 軟化病。第五章 白殭病。第六章 膿病＝蠶病消毒法 緒言。第一章 蠶病豫防の方法。第二章 消極的豫防法。（一）母蛾檢査（二）蠶種の洗滌（三）病斃蠶の消毒。（四）蠶沙の處理（五）蠶室の消毒（六）蠶具類の消毒法。（七）蠶宗蠶具消毒の養蠶上に及ぼす効果。第三章 積極的豫防法（一）蠶の種類と體質との强弱（二）原種の飼料と次代蠶兒の體質の强弱。（三）蠶種の催青法と體質の强弱（四）飼育溫度と體質の强弱＝秋蠶用桑樹栽培法。第一章 總輪。第一節 桑樹栽培の意義と秋蠶用桑。第二節 秋蠶用桑種の撰擇。第三節 桑樹栽培の要義。第四節 根の吸收作用。第五節 腐植質の効能。第六節 消化還元バクテリア。第七章 本論。第一節 苗木。第二節 苗。第三節 株の整理。第四節 桑園の肥料。第三章 結論。参考肥料成分分析表

秋蠶飼育の用意は秋蠶書を必讀し置くの要あり本書は文體平易簡明些の難解なく一讀の下直に之を實地に應用し得る秋蠶界最適の書籍たり。

發行所 東京市神田區錦町三丁目十八番地 振替貯金口座東京一二〇六番 大日本蠶絲會圖書部

◉實地に應用して美繭を收めよ

稟告

國立蠶業試驗場及各府縣立原蠶種製造所試驗場等の研究成績を綜合すれば支歐一代を以て最優良と認定せられ基礎種は國蠶歐五號、國蠶歐七號、國蠶支三號、國蠶支七號を特に優良とせられたり。

又外山博士は今日世界の基礎原種中伊太利種アスコリを最優良と推賞せられたり

本社は是等基礎原種を豐富に所持し嚴格なる飼育の下に設備を整頓し交配確實に病毒皆無の精選なる一代交配種を製造す

本年一代交配種の成績は病毒歩合に正比例し不良蠶種の爲甚しき失敗を招けるもの多數あり充分選擇せられん事を乞ふ

本社製蠶種の母蛾收容後殺蛾乾燥せず嚴密に豫知檢査をなせる成績は何れも病毒歩合千分の零を示せり

春蠶種

黃繭
- 支歐一代
  - 直輸アスコリ×キネーゼーオロブロ
  - 國蠶歐五號×國蠶支三號
  - 國蠶歐七號×國蠶支七號

白繭
- 支歐一代
  - プランビユール×三、二五
- 日支一代
  - 赤熟×支那二十號

夏秋蠶

冷藏種
- 日支一代
  - 大白龍×特大支那二十號
  - 大白龍×紹興
- 支歐一代
  - 二化性紹興×歐十一號
  - 二化性紹興×大白龍
  - 二化性眞光丸×十特大支那二十號

生種
- 日支一代
  - 大白龍×二化性諸桂
  - 大白龍×清廿號

兵庫縣養父郡廣谷村

一代交配種專門豐受社　**松田源治**

振替口座大阪四六四一番　但馬廣谷局區內電略（マツ）

大日本蠶絲會懸賞當選

專賣特許第參〇九參六號

廻轉式種繭選別器

大澤太郎考案

乙號
定價金十五圓
（送料）普通小包二十八錢
代金引替五十七錢

丙號
定價金十八圓
（送料）普通小包三十六錢
代金引替六十九錢

乙號は本年三月發賣以來盛に製造販賣の處先般大に改良と同時に定價十二圓を十五圓と改正せり

丙號は信州、松本、上田地方の有志家各位の御希望に依り乙號と略同形の大型となしたるものにして中には數十臺を連設し電力水力等にて運轉せしむる向もあり

製造發賣元
廻轉社
東京市京橋區新富町六ノ二
電話京橋三三八九
振替東京一〇二〇五

御注意
御註文の節は金參圓以上御送附被下度願上候

特約店募集
御希望の御方は大至急御申越しあれ

明治四十五年三月二日
第三種郵便物認可
蠶絲の光第百拾六號
大正六年八月十五日發行
（毎月一回十五日發行）

■進呈＝交雜種（等に關する）最新の圖書目錄（どなたにも）差上（ますハガキで御申込）下さい

三重縣立原蠶種製造所長 水井壽一郎先生著＝再訂增補第四版＝

全部改版
通俗蠶種學
全一册

菊判洋裝總クロース金文字入美本精巧挿畫豐富
紙數三百八十餘
實價金壹圓五十錢
送料金八錢

本書は蠶種學專攻を以て名聲高き水井先生が多年の蘊蓄を披瀝せられたるものにして事苟も蠶種に關するものは之を悉く網羅して餘す處なく記述明晰所論詳密にして懇切、特に蠶の種類改良、蠶種の製造及保護等に於ては先生獨得の研究に新創見を以てす斯界稀に見る良著なり、今回第四版の刊行に當りては最新の研究成績に基き大訂正と大增補とを加へ其面目を一新せられたり、されば學習者は勿論、優良蠶種を製造せられむとするの士良繭の多穫を望まるゝの養蠶家諸君は是非一本を座右に備へ之を繙かれんことを希ふ。

東京高等蠶絲學校教授 岩淵平介先生著
■通俗蠶體病理學
金壹圓五拾錢 送料拾貳錢

東京高等蠶絲學校教授 岩淵平介先生著
■外國種及交雜種に對する蠶病豫防の方法
金壹圓 送料八錢

廣島縣立原蠶種製造所長 池田榮太郎先生著
■蠶體衞生論
金壹圓 送料八錢

廣島縣立原蠶種製造所長 池田榮太郎先生著
■蠶種人工孵化法
金參拾五錢 送料四錢

夏秋蠶傳習所長 倉澤運平先生著
■春夏秋蠶應用 給桑原論
金壹圓貳拾錢 送料八錢

上田蠶絲專門學校教授 三谷徹先生著
■養蠶製絲 屑物整理法
金七拾五錢 送料八錢

大日本蠶絲會技藝委員 吉永信子女史著
■實驗 屑物整理法講義
金六拾錢 送料六錢

鈴木親一君著 ＝誰にも出來る！＝眞綿の獨習書
■屑物整理 眞綿製造法
金七拾五錢 送料八錢

發兌元
東京市神田區錦町一丁目十六番地
電話本局三四九一 振替東京一三一九〇
明文堂